



内閣府

内閣府発表

平成21年12月21日

「高齢者の生活実態に関する調査」結果

調査対象 : 全国の60歳以上の男女5,000人
有効回答数(率) : 3,398人(68.0%)

1 社会的孤立が懸念される高齢者の実態

高齢化の急速な進展や高齢単身世帯の増加背景に、高齢者の社会的孤立が懸念されている。ここでは、「会話の頻度」「困ったときに頼れる人の有無」「社会活動への参加や交流等の状況(町内会、ボランティア、趣味・スポーツ、友人つきあい)」の3項目の調査結果から、“社会的孤立”が懸念される高齢者の属性や環境を分析した。

<ポイント>

(1) 会話の頻度

全体の92.1%は「毎日」会話している一方、会話が「2～3日に1回」以下は7.9%。

一人暮らし世帯の人は会話が少ない人が多く、会話が「2～3日に1回」以下と回答した男性は41.2%、女性は32.4%。

未婚者、離別者は会話が少ない人が多く、会話が「2～3日に1回」以下と回答した未婚者は33.0%、離別者は27.0%。

「健康状態」が「あまり良くない・良くない」人では、会話が「2～3日に1回」以下は16.5%。

(2) 困ったときに頼れる人の有無

「頼れる人がいない」人は、全体では3.3%。

一人暮らし世帯では「頼れる人がいない」人の割合が高く、男性で24.4%、女性で9.3%。

未婚者、離別者では「頼れる人がいない」人の割合が高く、未婚者20.2%、離別者11.3%。

「現在の健康状態」が「あまりよくない・よくない」人では「頼れる人がいない」が少し高く5.2%。

(3) 社会活動への参加や交流等の状況(町内会、ボランティア、趣味・スポーツ、友人つきあい)

高齢になるほど(特に80歳以上)社会活動への参加や交流が低調。

男女とも一人暮らし世帯では、町内会等、ボランティアへの参加が低調。

「現在の暮らし向き」が「たいへん苦しい・やや苦しい」と回答した人ほど社会活動への参加や交流が低調。

「婚姻状況別」では「離別者」・「未婚者」では社会活動への参加や交流が低調。

「現在の健康状態」が「あまりよくない・よくない」と回答した人ほど社会活動への参加や交流が低調。

2 高齢者の経済状況

高齢世代は、若年世代と比較して、世代内の経済格差が大きいといわれている。本調査結果から暮らし向きの評価、家計収支、収入、支出、預貯金、物質的欠乏の有無を用いて、高齢者の経済状況を分析した。

<ポイント>

「現在の暮らし向き」について、「大変苦しい」が 7.2%、「やや苦しい」が 19.2%、「普通」が 65.2%、「ややゆとりあり」が 7.4%、「大変ゆとりあり」が 1.1%であった。

「苦しい」層（「大変苦しい」「やや苦しい」の合計）の割合は、年代が高くなるほど減少。

「苦しい」層の割合は、男女別では、どの年代でも、女性より男性のほうがやや多い。

「苦しい」層の割合は、健康状態がよくない者、未婚者、離別者、一人暮らし世帯で相対的に高い。

持家に住んでいる人では「苦しい」層が 23.5%に対し、借家等に住んでいる人は 49.5%。

暮らし向きが「大変苦しい」層では、4.9%が水道電気ガスの停止を経験、15.6%が食料を買えなかった経験がある。

暮らし向きが「普通」層の約4割、「ゆとりあり（ややゆとりあり、大変ゆとりがあるの合計）」の6割強は毎月預貯金をしている。

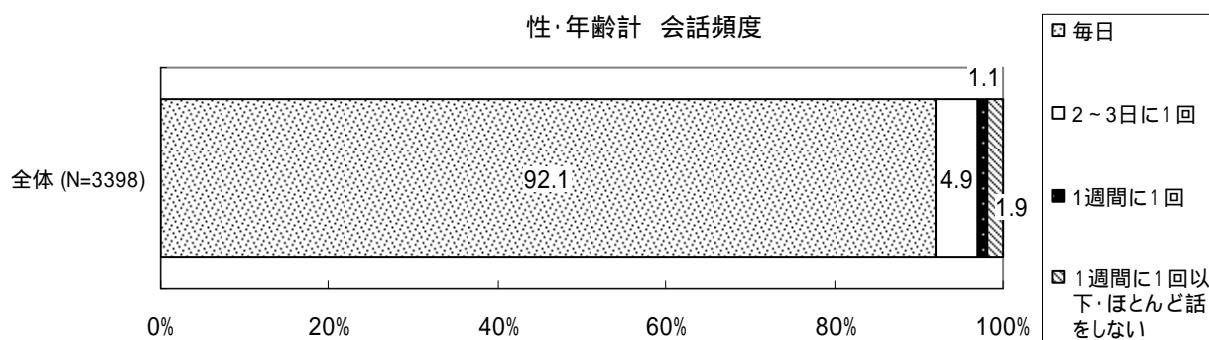
「普通」層で、「ほぼ毎月赤字」は 5.0%、「ときどき赤字」が 23.5%。「ほとんど赤字にならない」「全く赤字にならない」をあわせると 71.5%。

ポイントの概要

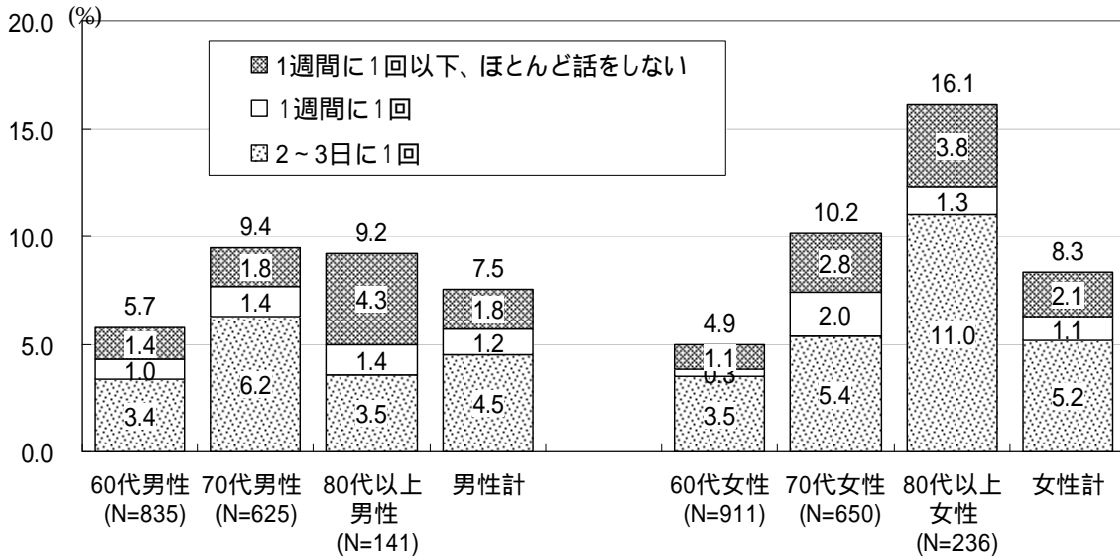
1 社会的孤立が懸念される高齢者の実態

(1) 会話の頻度

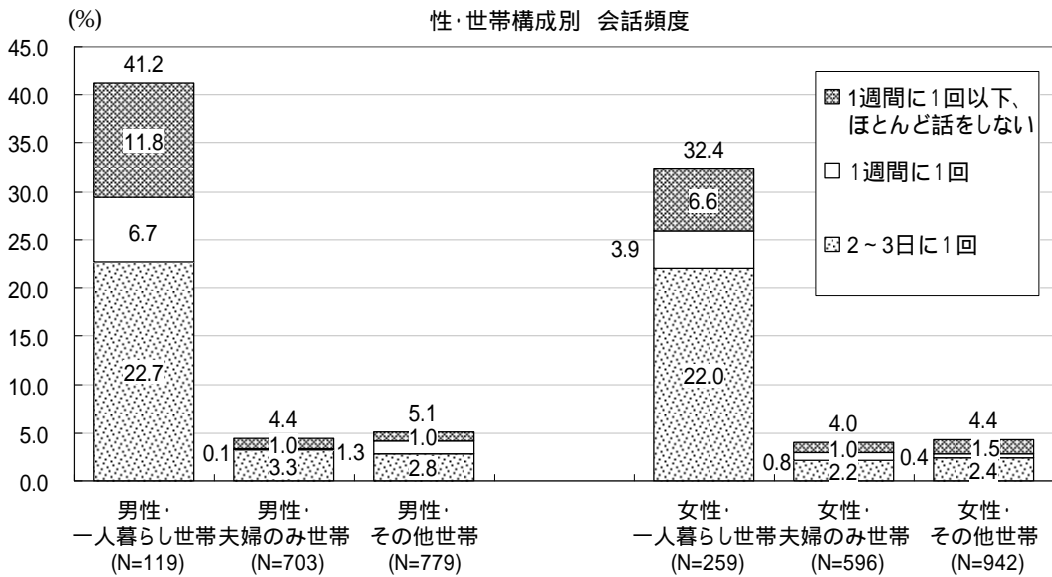
- 会話の頻度(ふだん、人(同居の家族を含む)と話しをする頻度。電話やEメールも含む。)については、全体の92.1%が「毎日」会話している。一方、「2～3日に1回」以下の人(「2～3日に1回」「1週間に1回」「1週間に1回以下・ほとんど話をしない」の合計)が7.9%。
- 高齢になるほど会話の頻度は低下する傾向があり、特に女性の「80代以上」では「2～3日に1回」以下が、16.1%。
- 一人暮らし世帯では、「1週間に1回以下、ほとんど話をしない」が、男性で11.8%、女性で6.6%。
- 「暮らし向き」が「苦しい」人では「2～3日に1回」以下が13.3%。
- 「婚姻状況別」の「未婚者」では「2～3日に1回」以下が33.0%、「離別者」は同27.0%と高い。
- 「健康状態」が「あまり良くない・良くない」人では「2～3日に1回」以下が16.5%。
- 都市規模別では、差は小さい。
- 「友人との付き合い方」と会話の頻度とは強く関係している。友人付き合いを「していない」人では「2～3日に1回」以下が26.5%。



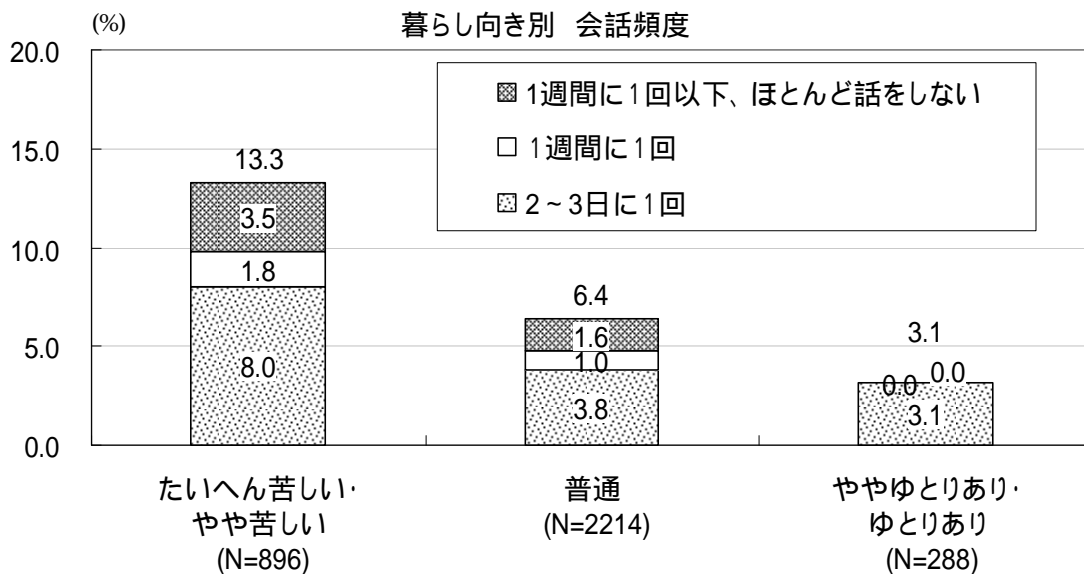
性・年齢別 会話頻度



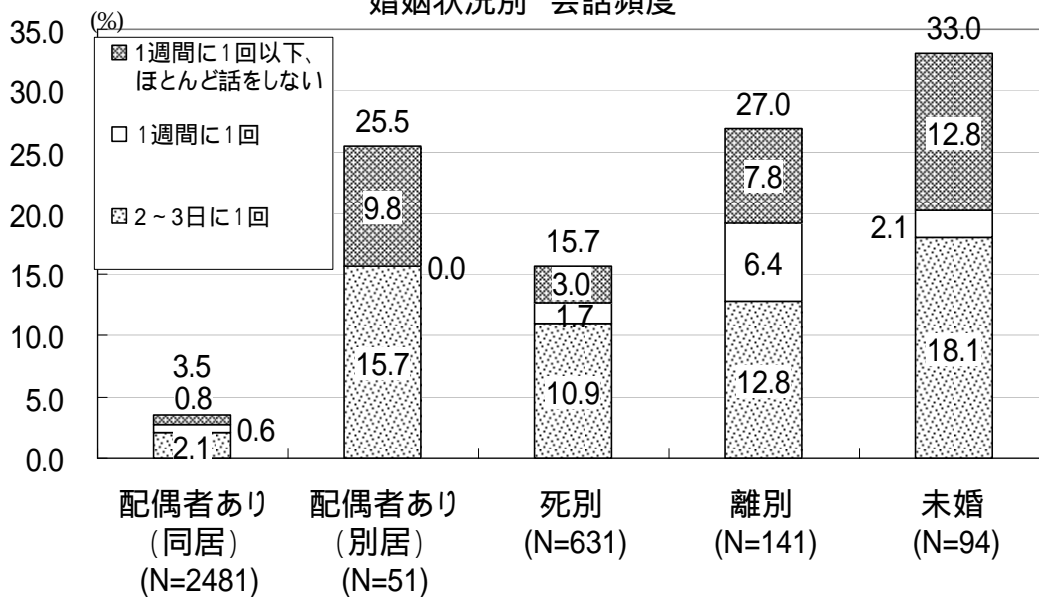
性・世帯構成別 会話頻度



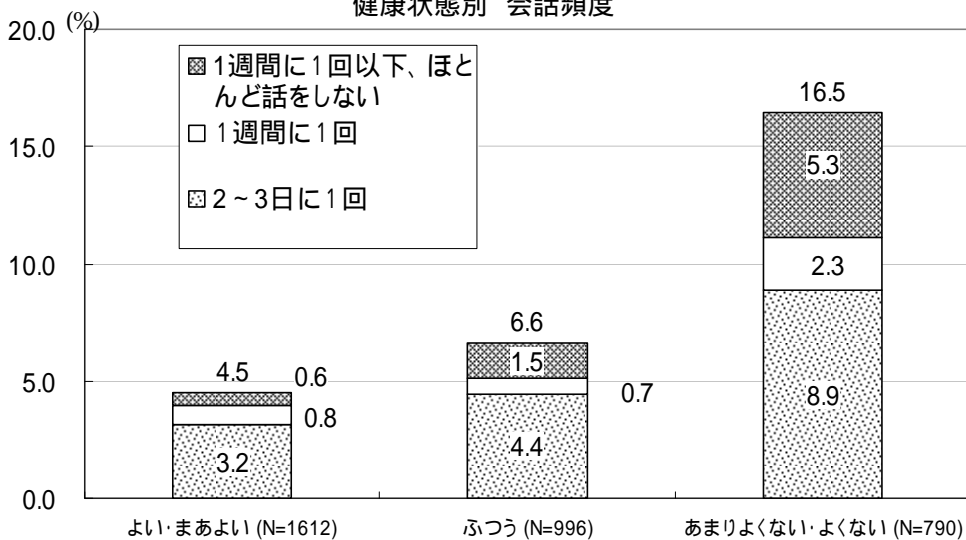
暮らし向き別 会話頻度



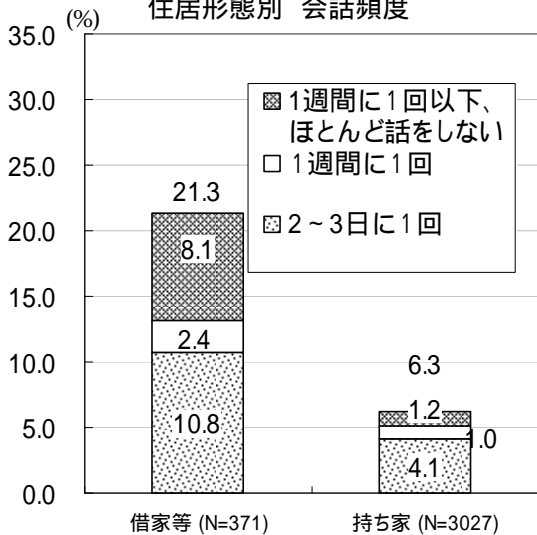
婚姻状況別 会話頻度

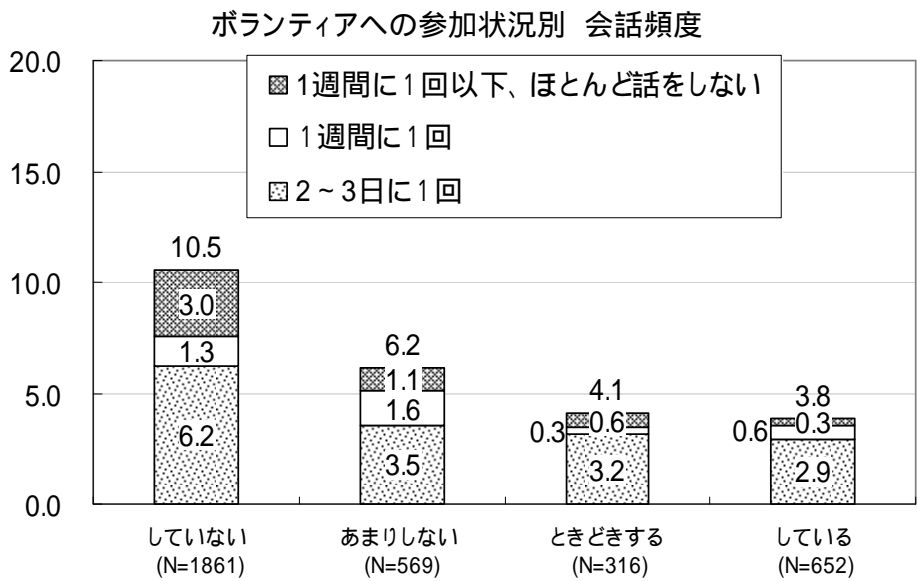
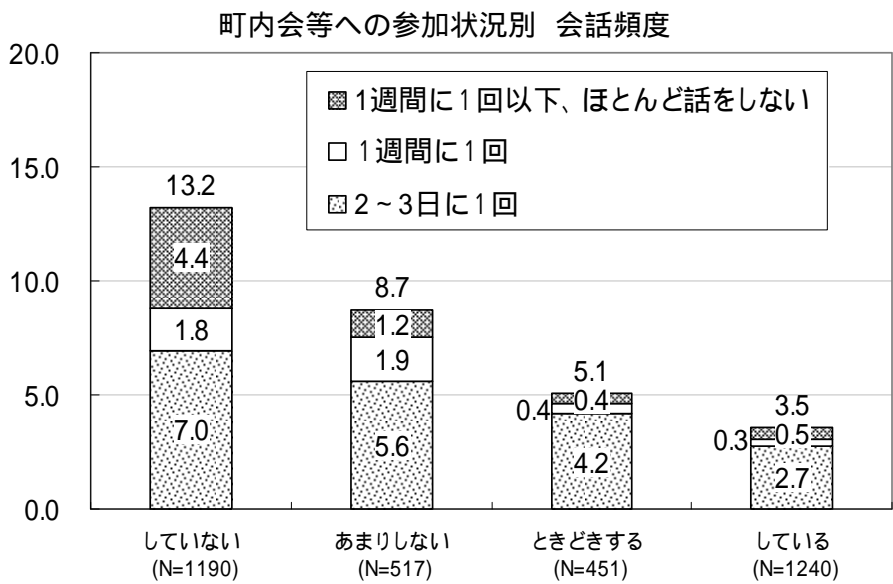
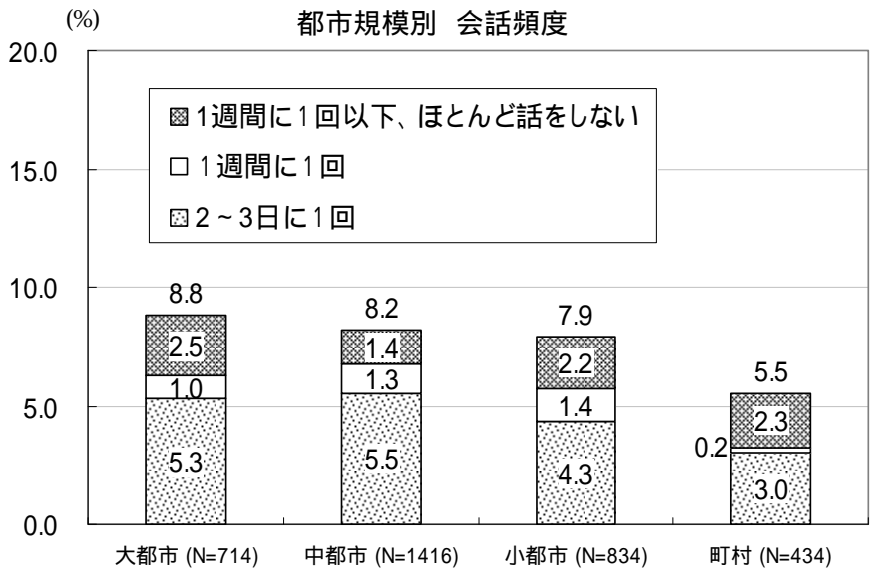


健康状態別 会話頻度

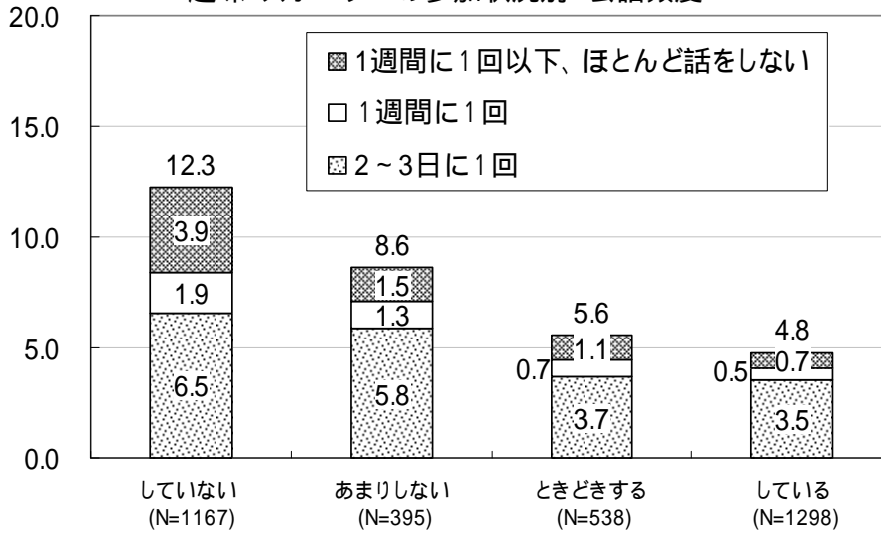


住居形態別 会話頻度

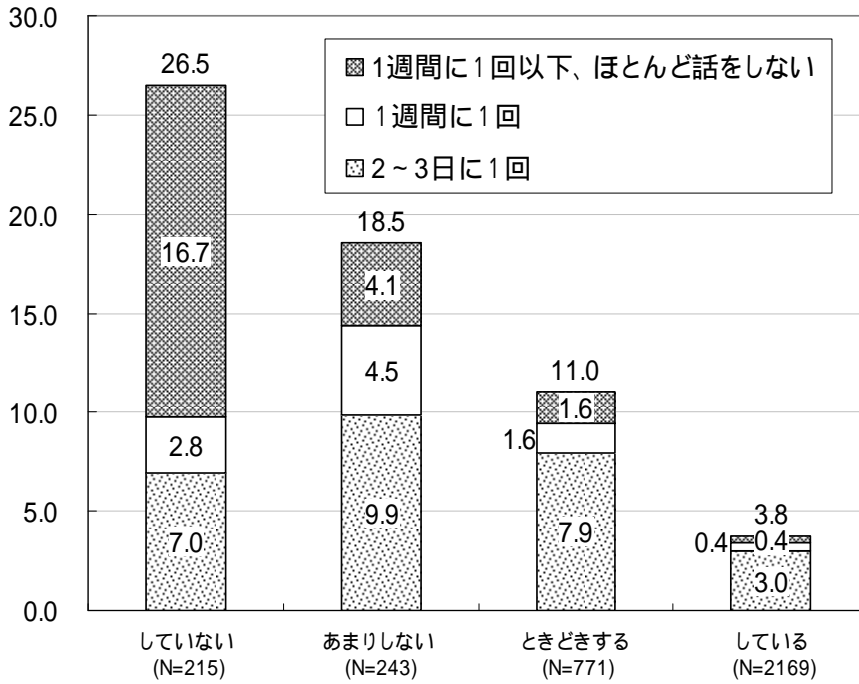




趣味・スポーツへの参加状況別 会話頻度



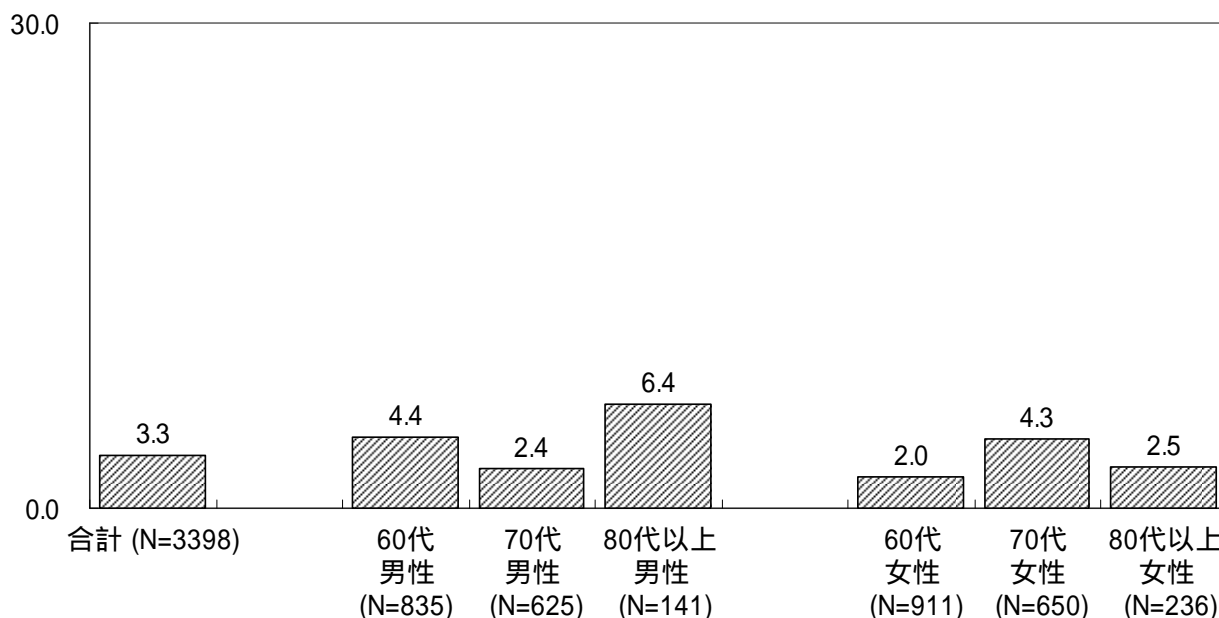
友達つきあいへの参加状況別 会話頻度



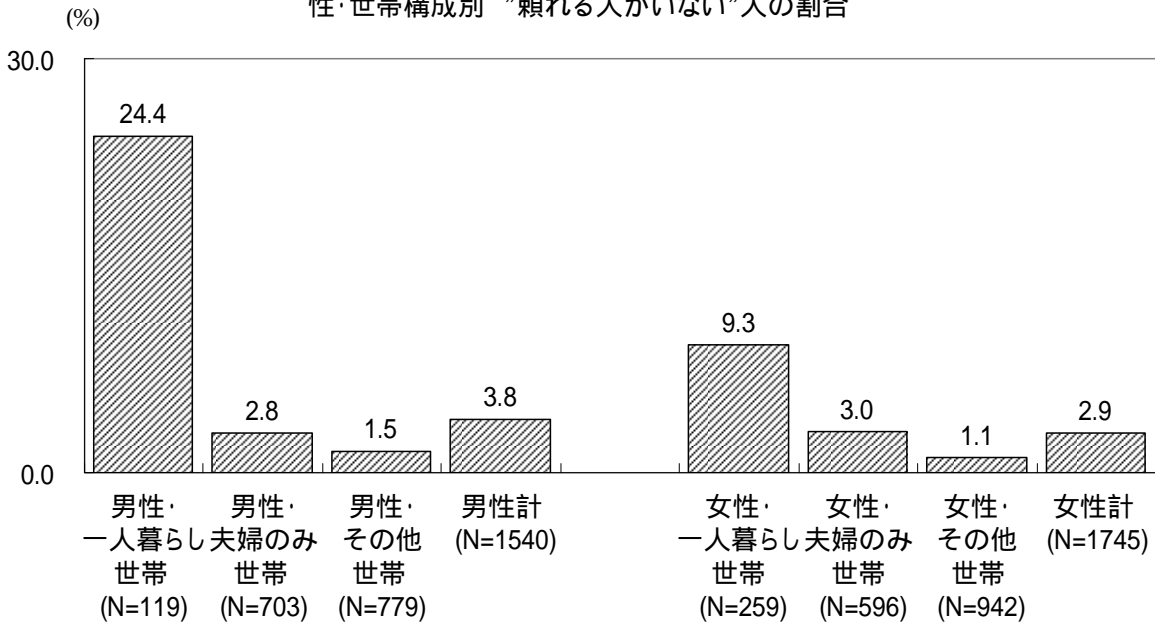
(2) 困ったときに頼れる人の有無

- ・ 「病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人の存在の有無」について、「頼れる人がいない」は全体の3.3%。
- ・ 80代以上の男性では「頼れる人がいない」の割合がやや高く6.4%。
- ・ 一人暮らしの人は「頼れる人がいない」人の割合が高く、男性で24.4%、女性で9.3%。
- ・ 暮らし向きが苦しい人のほうが、「頼れる人がいない」人の割合が高い。
- ・ 未婚者、離別者では「頼れる人がいない」人の割合が高く、未婚者20.2%、離別者11.3%。
- ・ 「現在の健康状態」が「あまりよくない・よくない」人では「頼れる人がいない」が少し高く5.2%。
- ・ 持ち家よりも借家等に住んでいる人のほうが、「頼れる人がいない」人の割合が高く9.4%。
- ・ 都市規模別では、「頼れる人がいない」割合に大きな差はない。

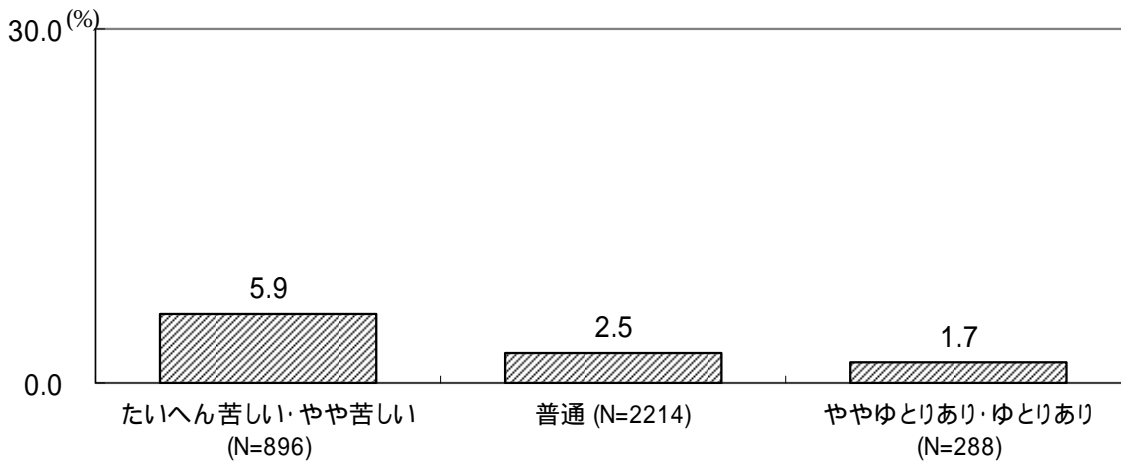
(%) 性・年齢別 “頼れる人がいない”人の割合



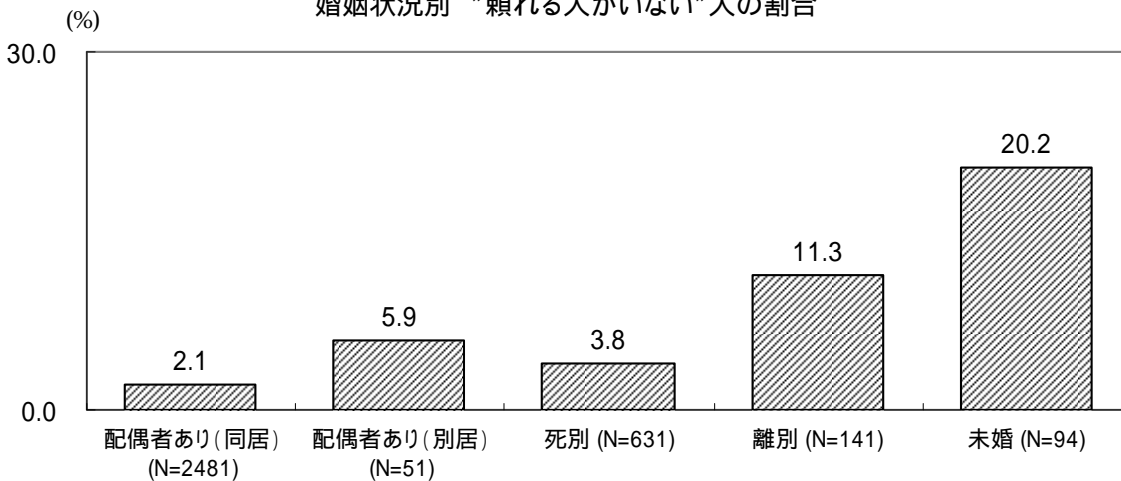
性・世帯構成別 “頼れる人がいない”人の割合



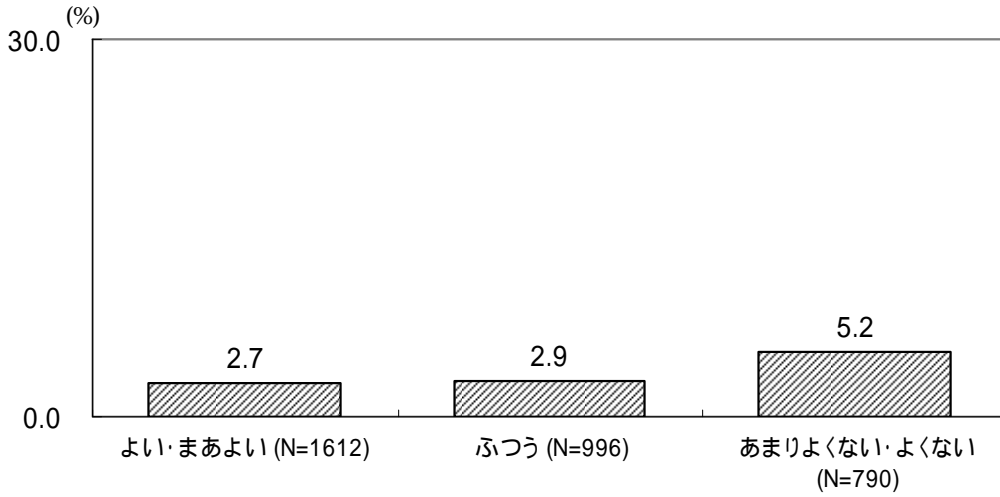
暮らし向き別 “頼れる人がいない”人の割合



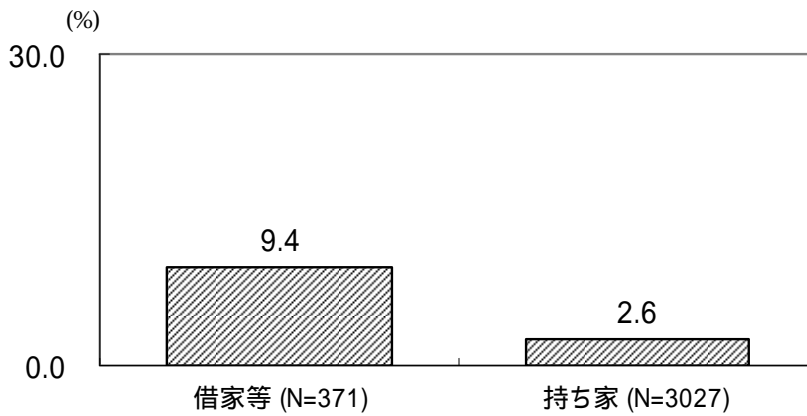
婚姻状況別 “頼れる人がいない”人の割合



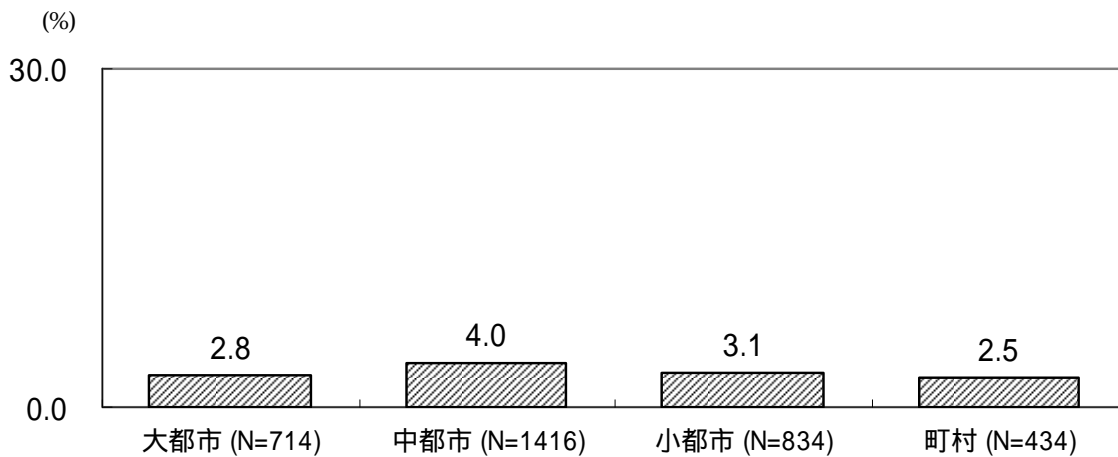
健康状態別 “頼れる人がいない”人の割合



住居形態別 “頼れる人がいない”人の割合



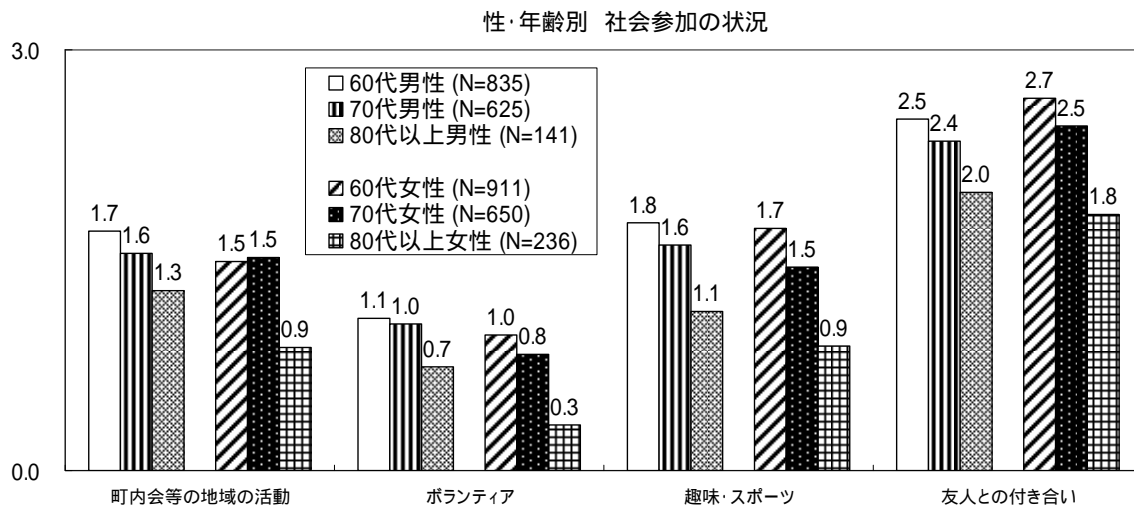
都市規模別 “頼れる人がいない”人の割合



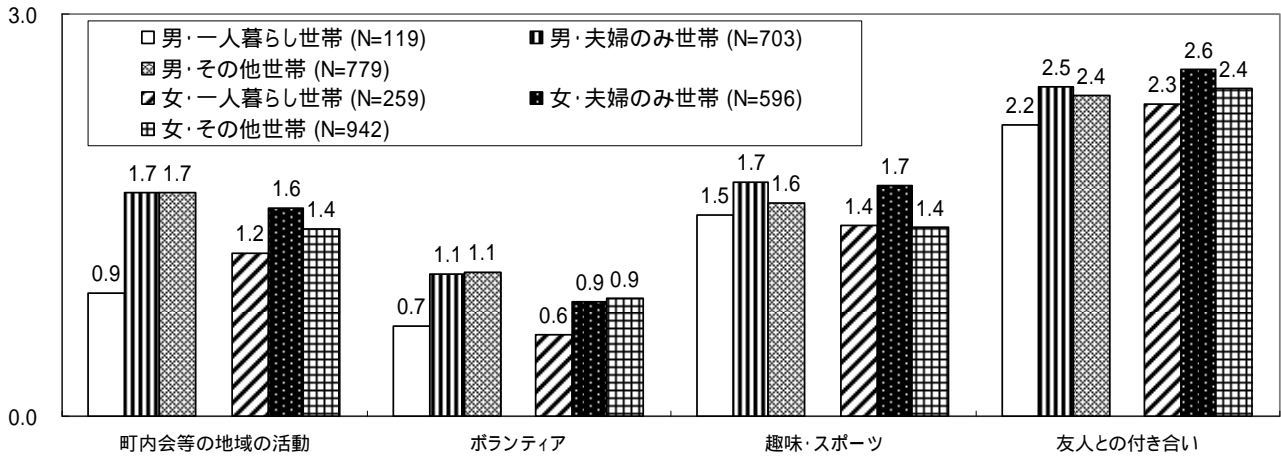
(3) 社会活動への参加や交流等の状況(町内会、ボランティア、趣味・スポーツ、友人づきあい)

- ・「性・年齢別」にみると、男女とも、高齢になるほど社会参加が低調になる。60代と70代の差は小さいが、70代と80代以上では差が大きい。
- ・どの年代でも、「町内会等の地域活動」・「ボランティア」・「趣味・スポーツ」については女性のほうが参加が低調。
- ・「性・世帯構成別」では、男女とも一人暮らし世帯では、町内会等、ボランティアへの参加が低調。
- ・「現在の暮らし向き」が「たいへん苦しい・やや苦しい」と回答した人ほど社会参加が低調。
- ・「婚姻状況別」では「離別者」・「未婚者」では社会参加が低調。
- ・「現在の健康状態」が「あまりよくない・よくない」人は社会参加が低調。
- ・「住居形態別」では、「借家」は「持ち家」に比べてどの活動でも参加が低調。
- ・「都市規模別」では、「町内会等の地域の活動」と「ボランティア」について都市規模が大きくなるほど参加が低調。「趣味・スポーツ」・「友人との付き合い」はあまり差がない。

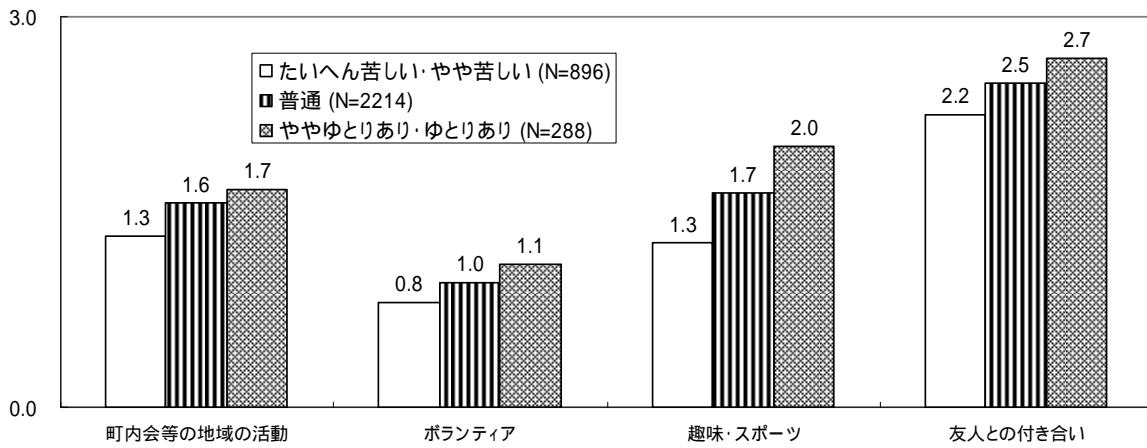
(注) 「町内会や老人会、婦人会など地域の活動」「ボランティアや奉仕活動」「趣味やスポーツ」「友人との付き合い(会ったり、手紙や電話のやりとりをしている)のそれぞれについて、「していない」= 0、「あまりしない」= 1、「ときどきしている」= 2、「している」= 3として、回答を得点化し、属性ごとに平均得点を算出した。



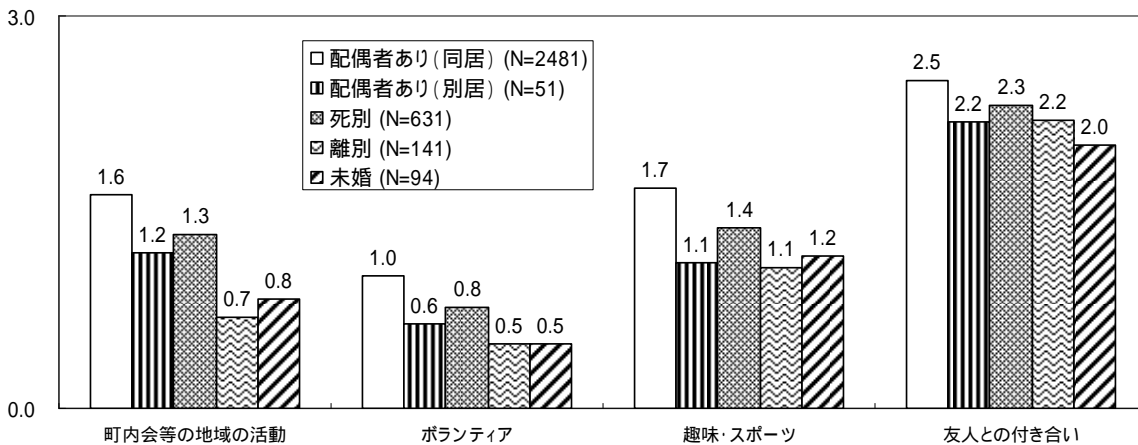
性・世帯構成別 社会参加の状況



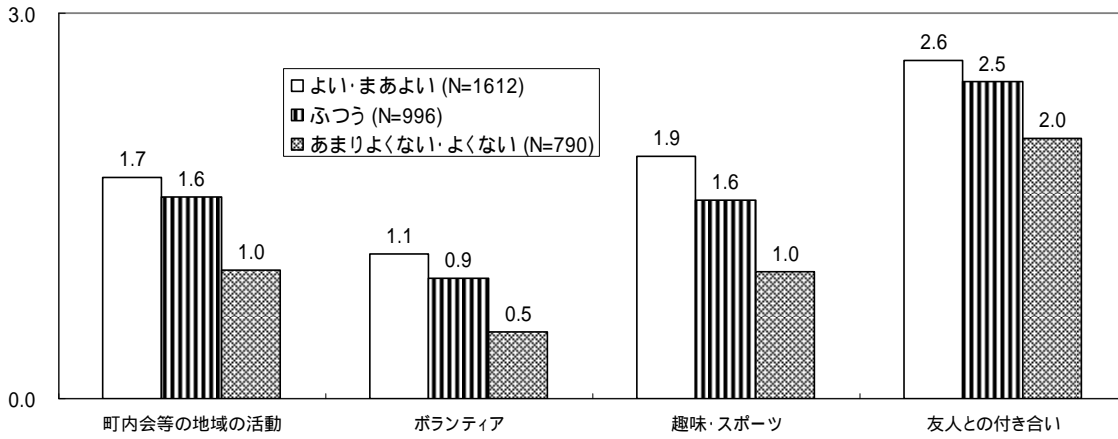
暮らし向き別 社会参加の状況



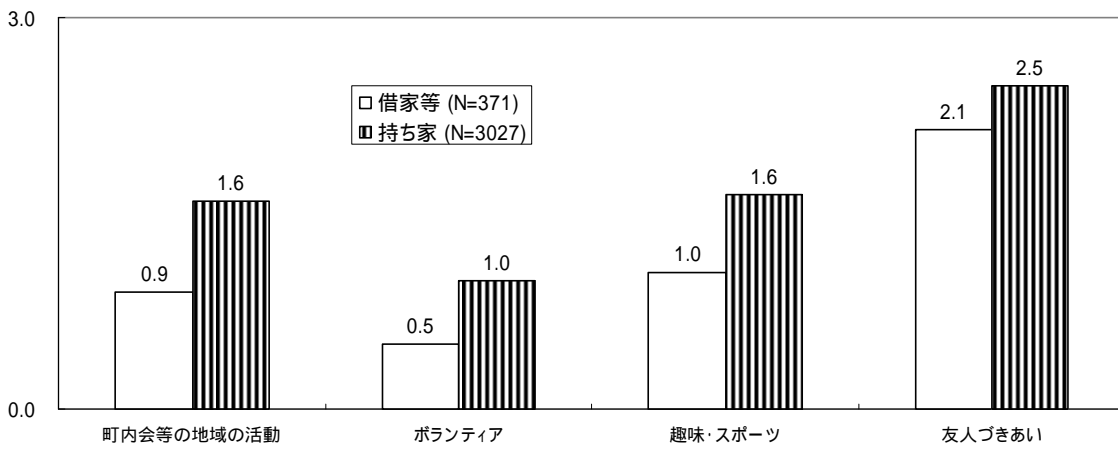
婚姻状況別 社会参加の状況



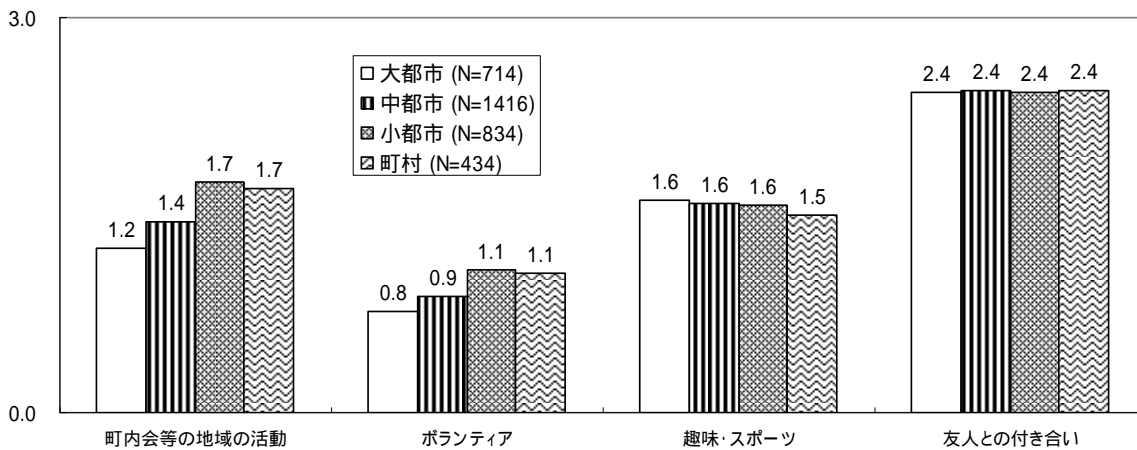
健康状態別 社会参加の状況



住居形態別 社会参加の状況



都市規模別 社会参加の状況



* 都市規模区分は以下の通り

大都市: 東京都区部と政令指定都市

中都市: 人口 10 万人以上の市

小都市: 人口 10 万人未満の市

町 村

2 高齢者の経済状況

<ポイント>

(1)60歳以上の者の約3割は、暮らし向きは「やや苦しい」・「大変苦しい」

「苦しい」層(「大変苦しい」「やや苦しい」の合計)の割合は26.4%であり年代が高くなるほど減少。

「苦しい」層の割合は、男女別では、どの年代でも、女性より男性のほうがやや多い。

「苦しい」層の割合は、健康状態がよくない者、未婚者、離別者、一人暮らし世帯で相対的に高い。

持家に住んでいる人では「苦しい」層が23.5%に対し、借家等に住んでいる人は49.5%。

「苦しい」層は、収入と支出が拮抗しており、預貯金のできない世帯が多く、頻繁に赤字になる。

「大変苦しい」層では、4.9%が水道電気ガスの停止を経験、15.6%が食料を買えなかった経験がある。

(2)60歳以上の者の約7割は、暮らし向きは「普通」又は「ゆとりあり」。

暮らし向きについて「普通」と回答した人は65.2%。「ややゆとりあり」「大変ゆとりあり」の合計が8.5%。これをあわせた「普通」以上は73.7%。

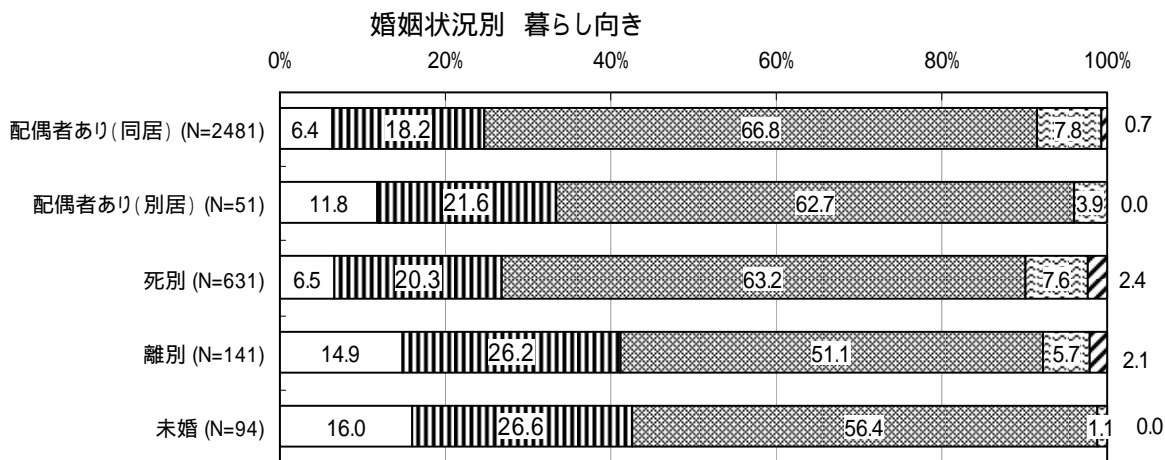
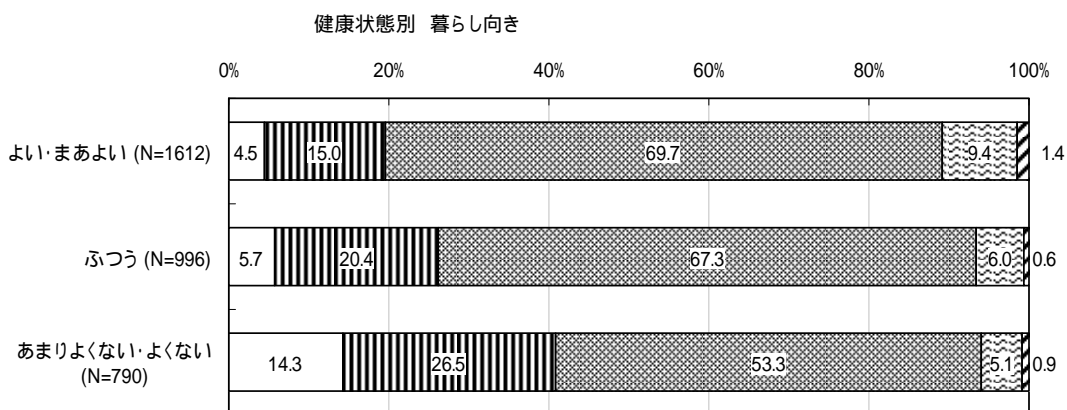
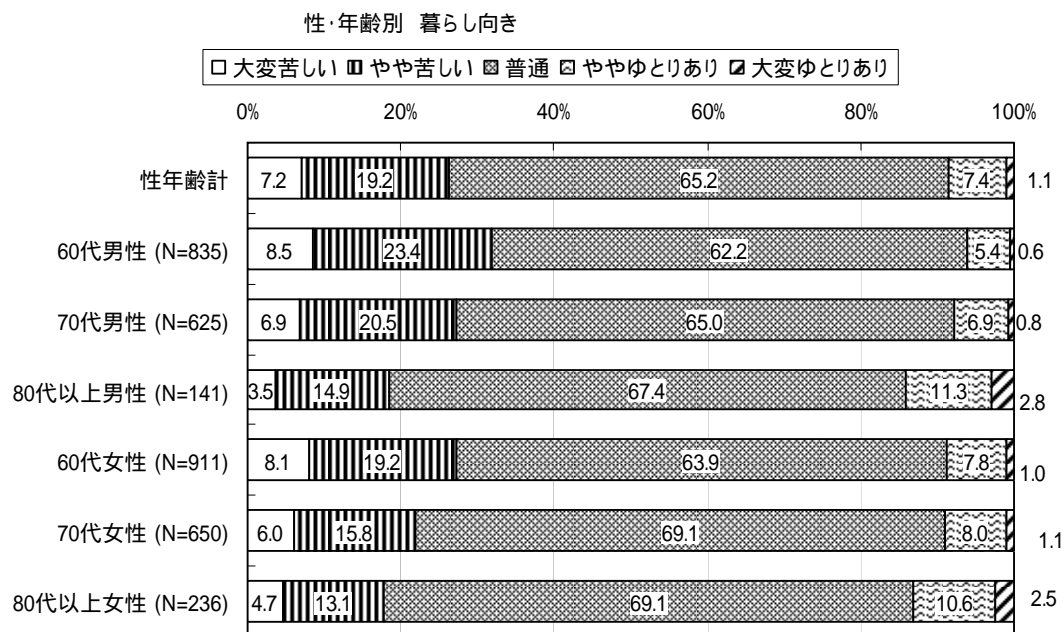
「普通」層の約4割、「ゆとりあり」(「ややゆとりあり」「大変ゆとりあり」の合計)の6割強は毎月預貯金をしている。

「普通」層で、「ほぼ毎月赤字」は5.0%、「ときどき赤字」が23.5%。「ほとんど赤字にならない」「全く赤字にならない」をあわせると71.5%。

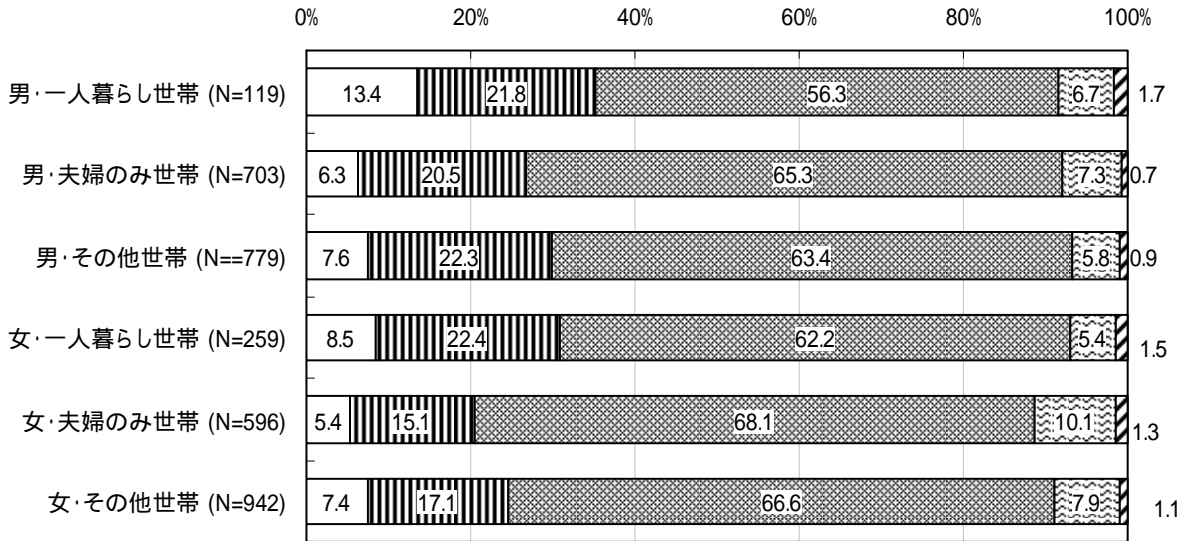
暮らし向き「普通」層は、一人暮らし世帯では年間収入180万円に対して支出156万円、夫婦のみ世帯では年間収入332万円に対して支出240万円(いずれも中央値)。

「普通」層で、水道電気ガスを止められた経験や、食料を買えなかった経験があるのはそれぞれ0.3%。

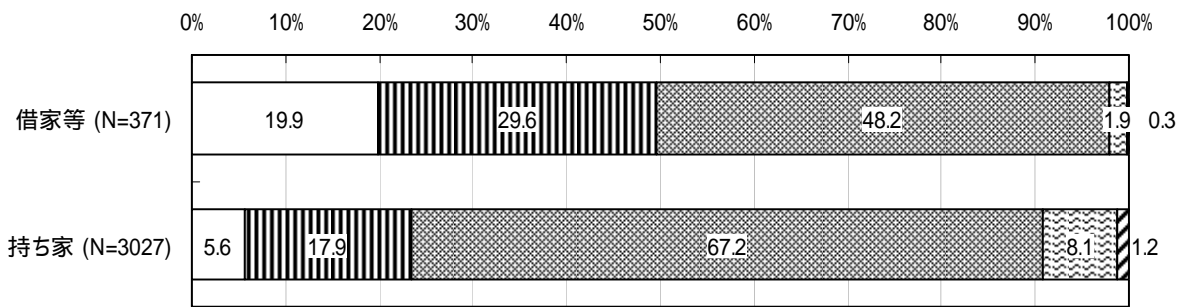
(1) 属性別にみた暮らし向き



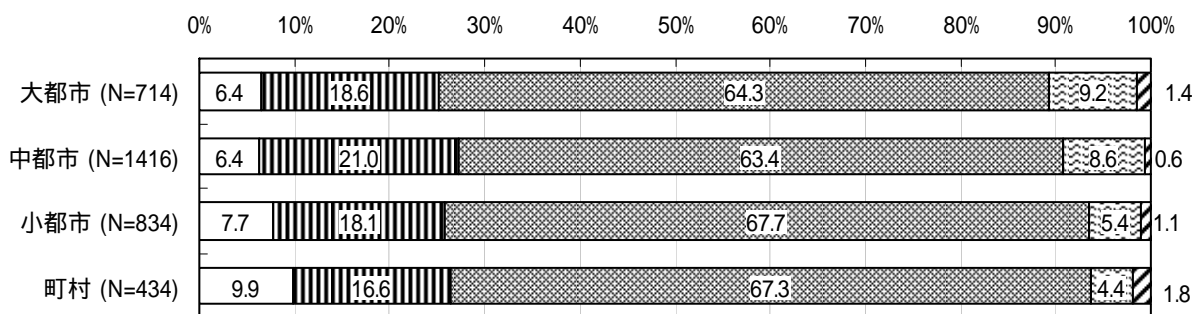
性・世帯構成別 暮らし向き



住居形態別 暮らし向き

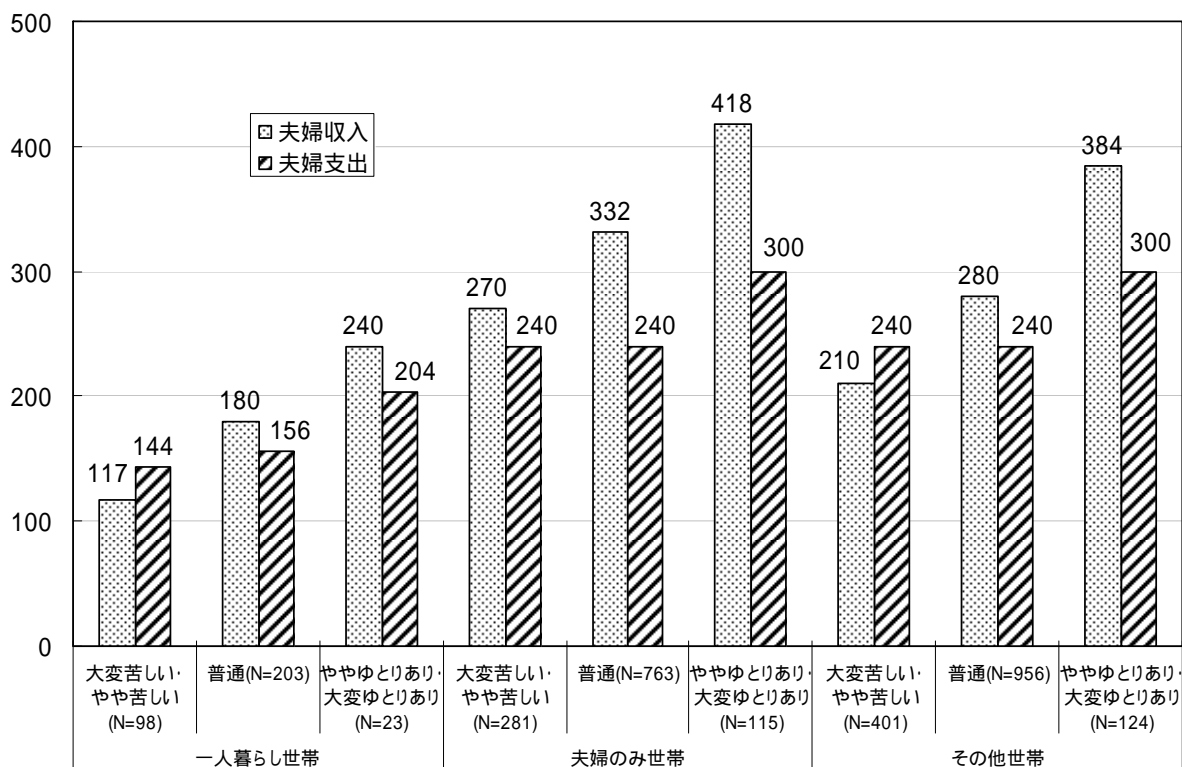


都市規模別 暮らし向き



(2) 暮らし向きと収入、支出、預貯金、家計収支、物質的欠乏の関係

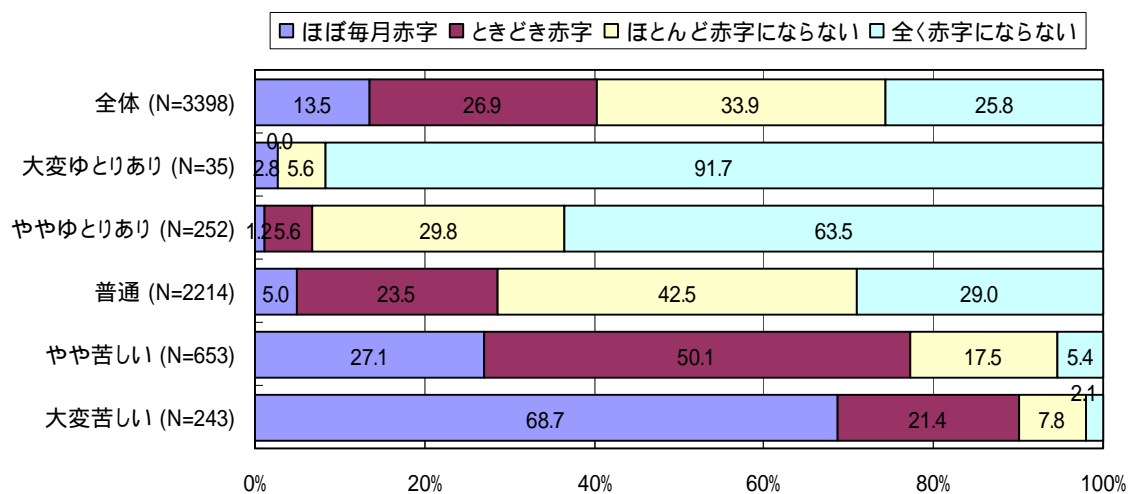
世帯構成別・暮らし向き別 夫婦収入及び夫婦支出（中央値、万円）



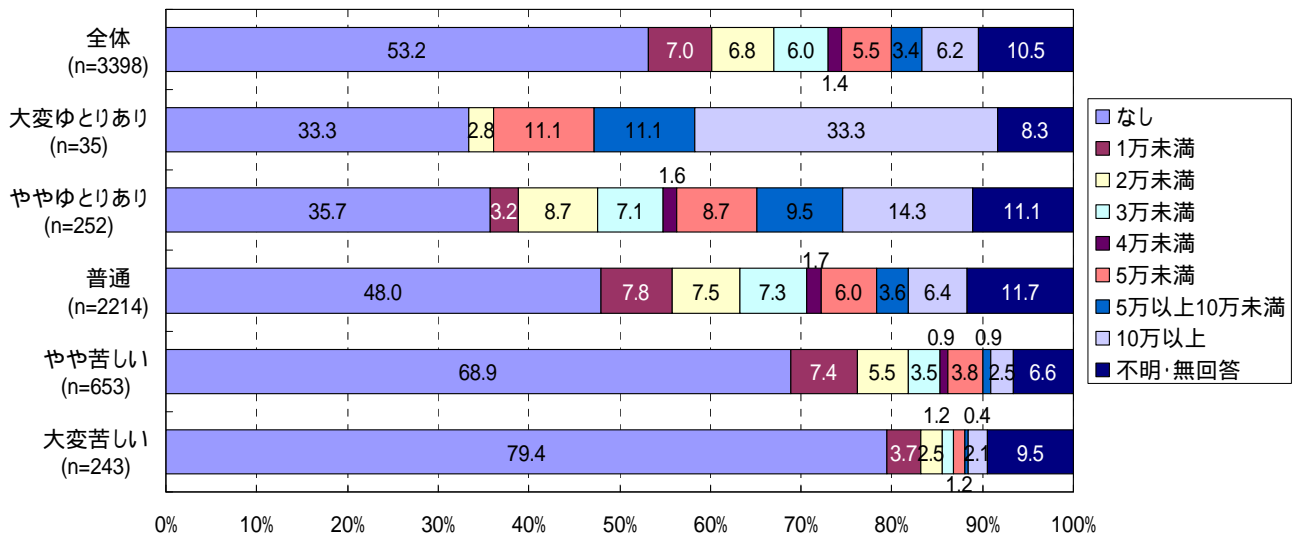
* 「夫婦収入」は「本人及び(配偶者がある場合は)配偶者の過去1年間の収入」、「夫婦支出」は「本人と本人の配偶者の1ヶ月平均の支出」を12倍したもの。

* 収入額・支出額について欠損値があるデータは除外して集計。

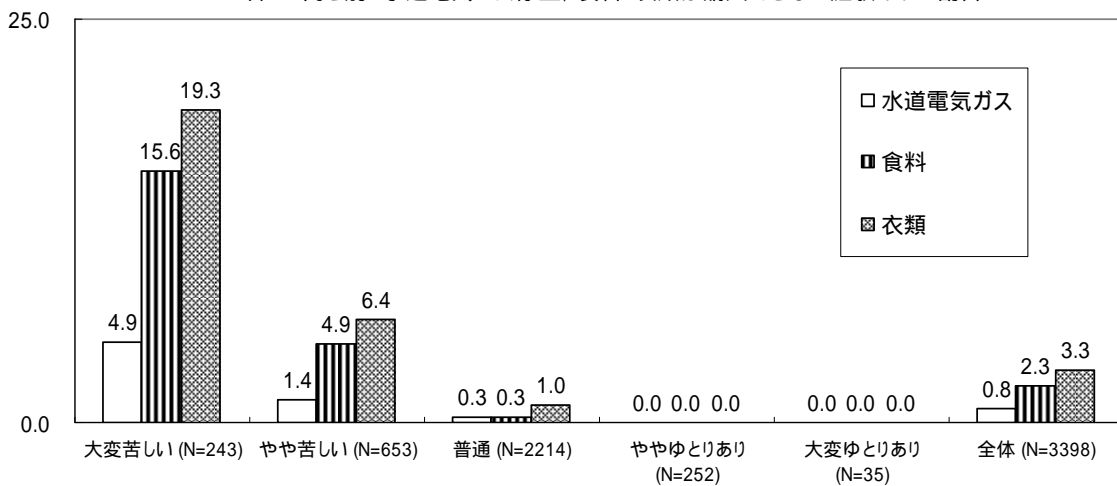
暮らし向き別 家計の状況



暮らし向き別 1ヶ月の平均預貯金額(万円)



暮らし向き別 水道電気ガス停止、食料・衣類が購入できない経験ありの割合



*「水道電気ガス」:過去1年間に、支払いが滞ったために、水道、電気・ガスなどのサービスを停止された経験が「ある」と回答した人の割合

「食料」:過去1年間の間に、金銭的な理由で、家族が必要とする食料が買えなかったことが「よくある」「時々ある」「まれにある」のいずれかと回答した人の割合の合計

「衣類」:過去1年間の間に、金銭的な理由で、家族が必要とする衣類が買えなかったことが「よくある」「時々ある」「まれにある」のいずれかと回答した人の割合の合計

『生活実態に関する調査』結果の概要

調査の目的

高齢者が直面する生活上の困難さを把握するためには、貧困、健康、社会的孤立といった要素を総合的にとらえることが必要であることから、高齢者の実態を調査することにより、今後の高齢社会対策に求められているものを把握し、関係施策の推進に資することを目的とする。

調査項目

- (1) 現在の健康状態
- (2) 暮らし
- (3) 社会生活
- (4) 公共サービスの利用
- (5) 職業と収入
- (6) 人生経験
- (7) 家族

調査対象

- (1) 母集団
全国の 60 歳以上の男女
- (2) 標本数
5,000 人
- (3) 抽出方法
住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

調査時期

平成 21 年 2 月 19 日 ~ 3 月 1 日

調査方法

調査員による個別面接聴取法

調査実施期間

社団法人 新情報センター

回収結果

(1) 有効回収数 (率)

3,398 人 (68.0%) *

*対象者本人に面接できず、代理の者が回答した 218 人を含む。代理の者が回答した理由及び該当数は以下の通り

対象者本人が入院していた	44 人
対象者が施設に入っていた	26 人
健康上の理由で回答できなかった	137 人
その他健康に関係しない理由	4 人
無回答	7 人

(2) 調査不能数 (率)

1,602 人 (32.0%)

- 不能内訳 -

転居	91 人	長期不在	46 人
一時不在	405 人	住所不明	37 人
拒否	862 人	死亡	12 人
病気・ケガ	75 人	ホーム等に入所	14 人
入院中	45 人	その他	15 人

調査対象者の基本属性 (性別・年齢別構成)

性別

	総数	男性	女性
総数 (人)	3398	1601	1797
構成比 (%)	100.0	47.1	52.9

年齢

	総数	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
総数 (人)	3398	876	870	746	529	262	83	32
構成比 (%)	100.0	25.8	25.6	22.0	15.6	7.7	2.4	0.9

過去の調査について

本報告書で結果を引用した過去の調査は次のとおりである。

内閣府が実施した平成 6 年度以降の高齢社会対策に関する調査は、すべて内閣府 HP (<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/kenkyu1.htm>) に掲載している。

調査結果の概要《主なポイント》

1. 健康状態に関する事項

60代の半数以上は「健康状態が良い」と回答。年齢が上がるとともに「健康状態が良くない」と回答する割合が増え、80歳以上では4割以上が「健康状態は良くない」と回答。(報告書P.7)

夫婦収入がある人の中で、収入が高いほど、「健康状態が良い」と回答する割合が多く、夫婦収入300万円以上では半数以上が「健康状態が良い」と回答。(報告書P.8)

60歳以上では、約3人に2人が「現在、通院している」と回答。75歳以上では約8割が通院している。(報告書P.10)

「通院している」と回答した人にその傷病名についてきいたところ、高血圧症(38.9%)、高脂血症(13.8%)、糖尿病(12.0%)の順となっている。(報告書P.13)

2. 暮らしに関する事項

暮らし向きについて、「大変苦しい」・「やや苦しい」と回答した人は26.4%で、「大変ゆとりがある」・「ややゆとりがある」と回答した人8.5%を大きく上回る。(報告書P.29)

夫婦年収が500万円以上であれば、「ゆとりがある」と回答した人が「苦しい」と回答した人を上回る。(報告書P.31)

15歳の頃の暮らし向きが「大変苦しい」と回答した人の4割以上が、現在の暮らし向きも「苦しい」と回答している。(報告書P.30)

家計の状況について「ほぼ毎月赤字になる」「ときどき赤字になる」と回答した人は40.4%。(報告書P.32)

「ほぼ毎月赤字になる」と「ときどき赤字になる」をあわせた『赤字になる』と回答した人は、年齢別にみると、高齢になるにつれて少なくなる傾向。(報告書P.33)

15歳の頃の暮らし向きについて「大変苦しかった」と回答した人の53.8%が『赤字になる』と回答。15歳の頃の暮らし向きが苦しい人ほど、現在の家計で赤字になると回答する人が多い。(報告書P.33)

健康状態がよくないほど『赤字になる』と回答した人が多く、健康状態が「よくない」と回答した人の約6割が『赤字になる』と回答。(報告書P.37)

現在、賃貸住宅や借間に住んでいる人で、過去1年間に家賃支払いの滞り経験がある人は9.6%であった。(報告書P.38)

過去1年間に金銭的な理由で家族が必要とする衣類が買えなかったことがある人は3.3%、食料が買えなかった人は2.3%であった。(報告書P.44)

過去1年間に水道、電気・ガスなどのサービスを停止された経験がある人は0.8%であった。(報告書P.41)

3. 社会生活に関する事項

日ごろの会話について、健康状態がよくないほど、会話の回数も少ない人が多く、健康状態が「よくない」と回答した人で会話が「1週間に1回以下」と回答した人は、13.5%であった。(報告書P.67)

日頃の社会活動について、約9割の人が「選挙投票」、「友人との付き合い」を行っている。続いて、約5割の人が「趣味やスポーツ」、「町内会や老人会、婦人会などの地域の活動」を行っている。(報告書P.71)

社会活動を行わない理由として「選挙投票」、「友人との付き合い」、「趣味やスポーツ」については「健康の事情」が多いが、「宗教団体やそれに相当するグループでの活動」や「政党・政治団体などでの活動」については「関心がない」が多い。(報告書P.71)

頼れる人が「いない」と回答した人は、総数で3.3%であった一方、「未婚」では5人に1人。(報告書P.80)

一人暮らし世帯では、14.0%が頼れる人がいないと回答。(報告書P.82)

4. 公共サービスの利用に関する事項

要介護等認定を受けている226名のうち、介護保険対象サービスを利用しているのは72.6%、利用していないのは27.4%であった。(報告書P.83)

介護保険対象サービスを「利用していない」と回答した人のうち「経済的な理由で」と回答した人は11.3%となっている。(報告書P.90)

5. 職業と収入に関する事項

全体では有職者は34.8%、無職は65.2%であった。60代前半では62.0%が有職者。(報告書P.97)

有職者では、「販売・サービスの職業」が最も多く30.6%、次いで「管理的職業」が14.9%、「生産工程・運輸職」が13.2%となっている。(報告書P.101)

「配偶者と合わせた1ヶ月の平均総支出額」を尋ねると、平均は22万円であり、年齢が高くなるほど総支出額が少なくなる傾向。(報告書P.124)

夫婦の総収入が高いほど総支出額が多くなる傾向。(報告書P.127)

住宅費(光熱費含む)については、5万円未満の人が全体8割強であった。住居形態別で見ると、住宅費(光熱費含む)が5万円以上の人は、持家の人は10.5%に対し、借家の人は38.7%であった。(報告書P.130)

食費については、5万円未満の人が全体の5割弱であった。夫婦収入別に見ると、収入が多くなるほど、食費が増える傾向にある。(報告書P.133)

衣服費については、5万円未満の人が全体の9割強であった。夫婦収入別に見ると、収入が少ないほど、衣服費「0円(なし)」と回答する人が増え、100万円未満では約3人に1人、100万円以上200万円未満では約4人に1人となっている。

その他の支出(1ヵ月平均)を見ると、交際費が「なし」又は「1万円未満」の人が約5割、趣味・娯楽が「なし」又は「1万円未満」の人が6割強となっている。(報告書P.136、139)

7. 家族に関する事項

同居している家族の人数(本人を含む)を尋ねると、「2人」が44.3%と最も高い。次いで「3人」の21.5%、「1人」の11.1%。(報告書P.178)

性・年齢別に見ると、女性は高齢になればなるほど一人暮らしが増え、80歳以上の女性の一人暮らしは2割を超える。(報告書P.181)

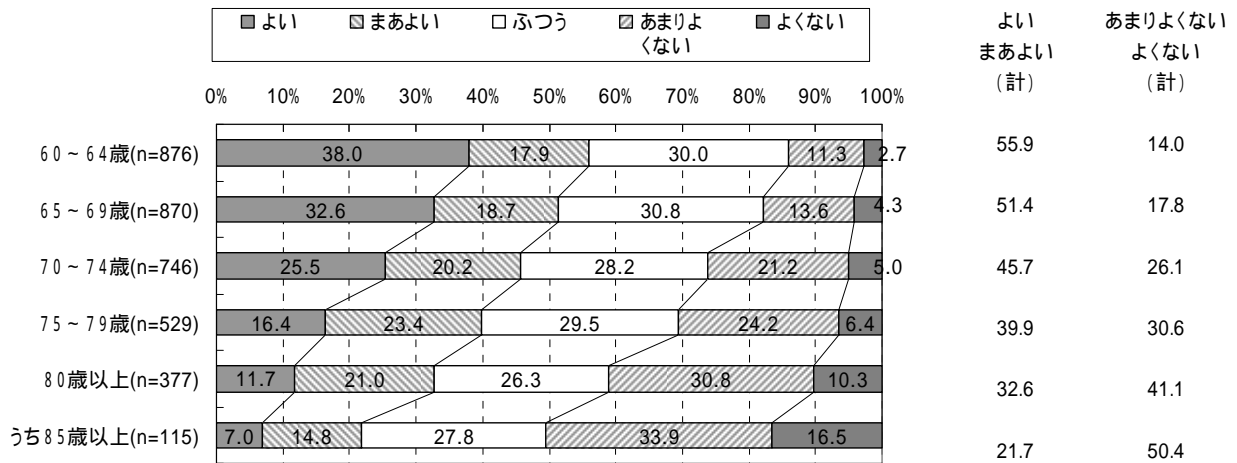
調査結果

1. 健康状態に関する事項

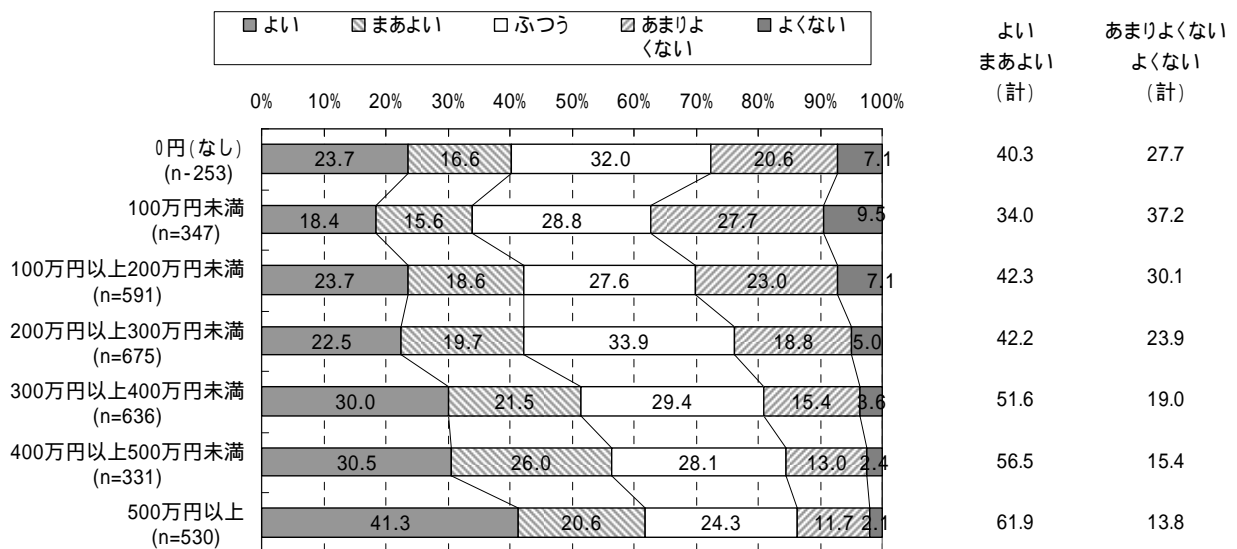
- ・ 60代の半数以上は「健康状態が良い」と回答。年齢が上がるとともに「健康状態が良くない」と回答する割合が増え、80歳以上では4割以上が「健康状態は良くない」と回答。
- ・ 夫婦収入がある人の中で、収入が高いほど、「健康状態が良い」と回答する割合が多く、夫婦収入300万円以上では半数以上が「健康状態が良い」と回答。

Q1「あなたの現在の健康状態は、いかがですか。」

(年齢階層別)

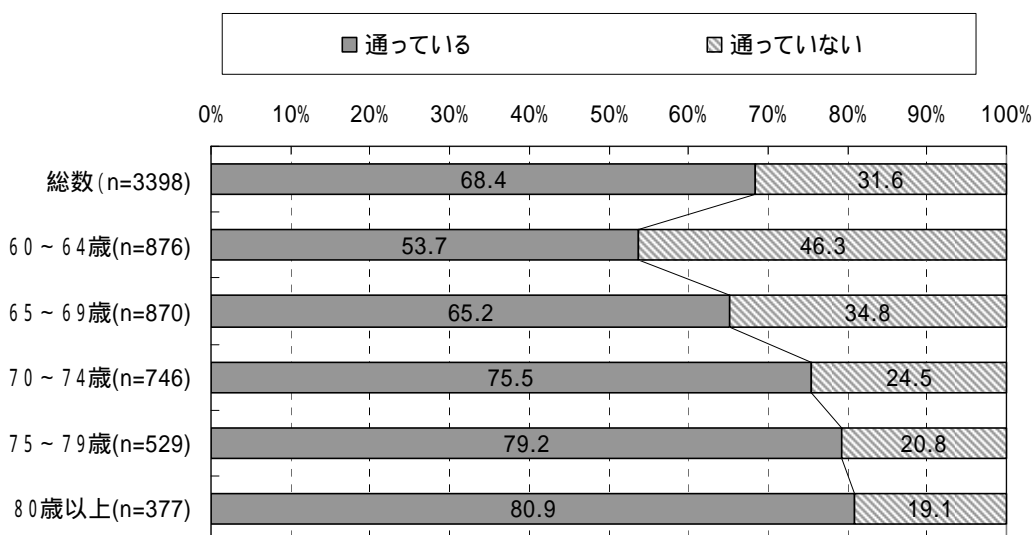


(夫婦収入額別)



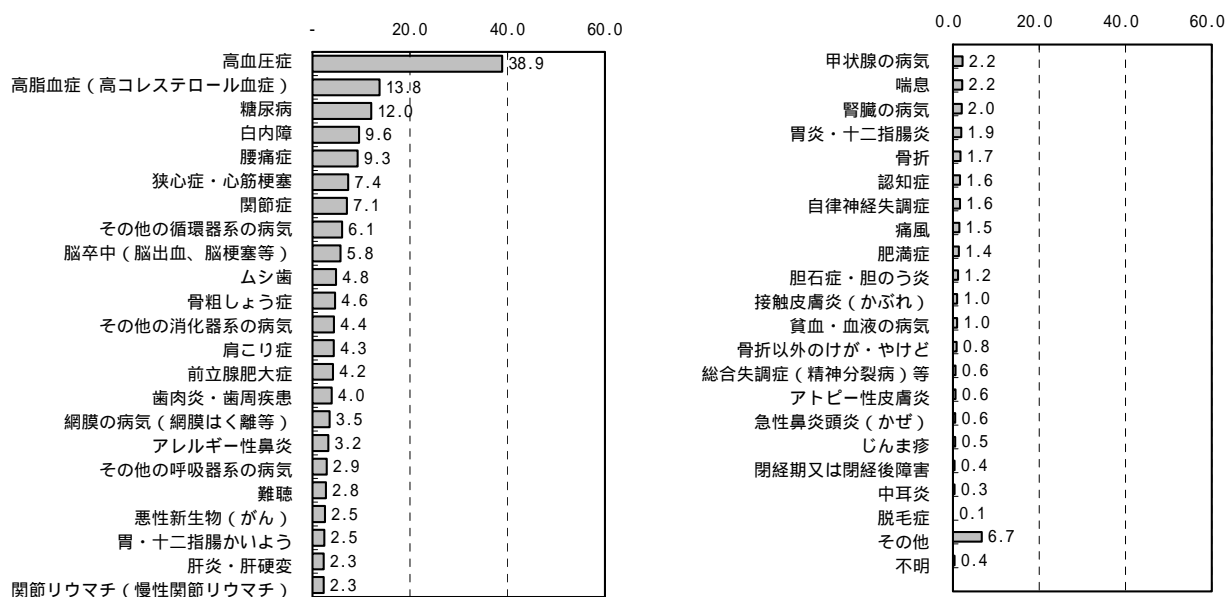
・ 60歳以上では、約3人に2人が「現在、通院している」と回答。75歳以上では約8割が通院している。

Q3「現在、傷病で病院や診療所、あんま・はり・きゅう・柔道整復師に通っていますか。」
(年齢階層別)



・ 「通院している」と回答した人にその傷病名についてきいたところ、高血圧症(38.9%)、高脂血症(13.8%)、糖尿病(12.0%)の順となっている。

Q3 - SQ1「どのような傷病で通っていますか。」(複数回答)

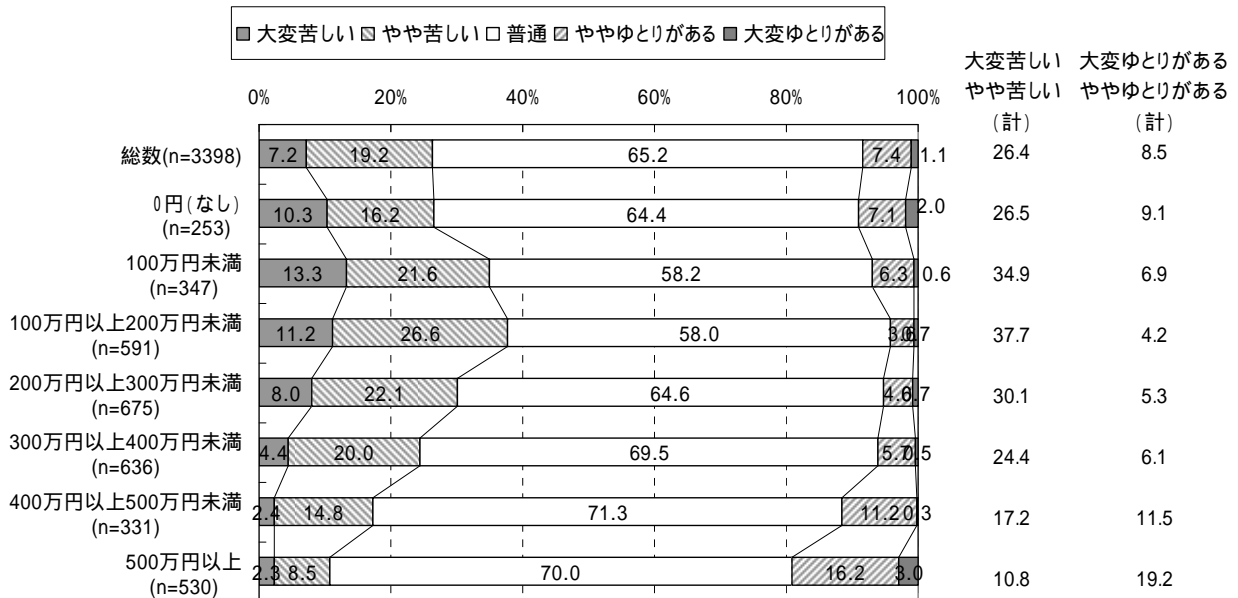


2. 暮らしに関する事項

- ・ 暮らし向きについて、「大変苦しい」・「やや苦しい」と回答した人は 26.4%で、「大変ゆとりがある」・「ややゆとりがある」と回答した人 8.5%を大きく上回る。
- ・ 夫婦年収が 500 万円以上であれば、「ゆとりがある」と回答した人が「苦しい」と回答した人を上回る。
- ・ 15 歳の頃の暮らし向きが「大変苦しい」と回答した人の 4 割以上が、現在の暮らし向きも「苦しい」と回答している。

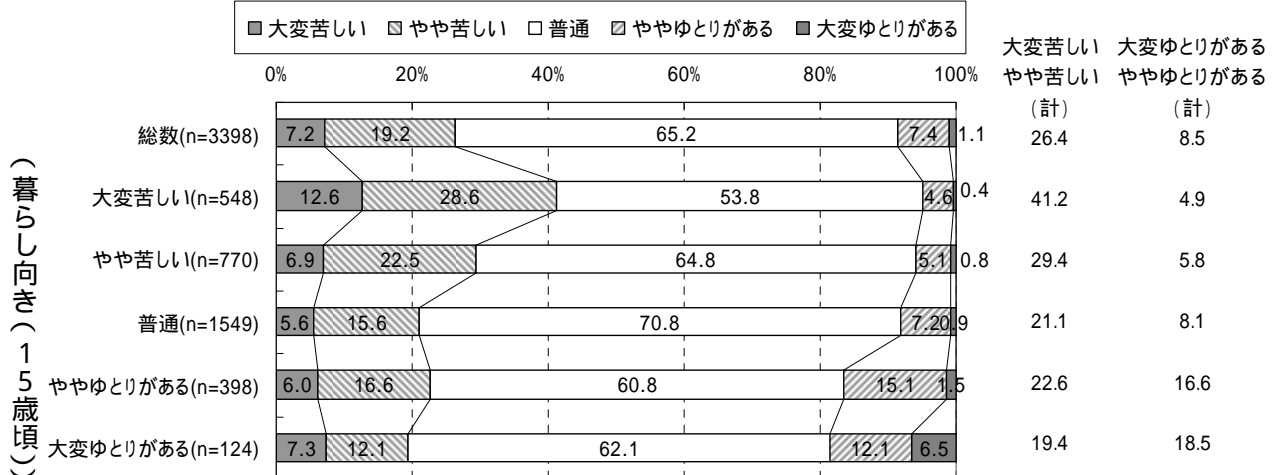
Q4 「あなたはお宅の現在の暮らし向きについてどのように感じていますか。」

(夫婦収入別)



(15歳の頃の暮らし向き別)

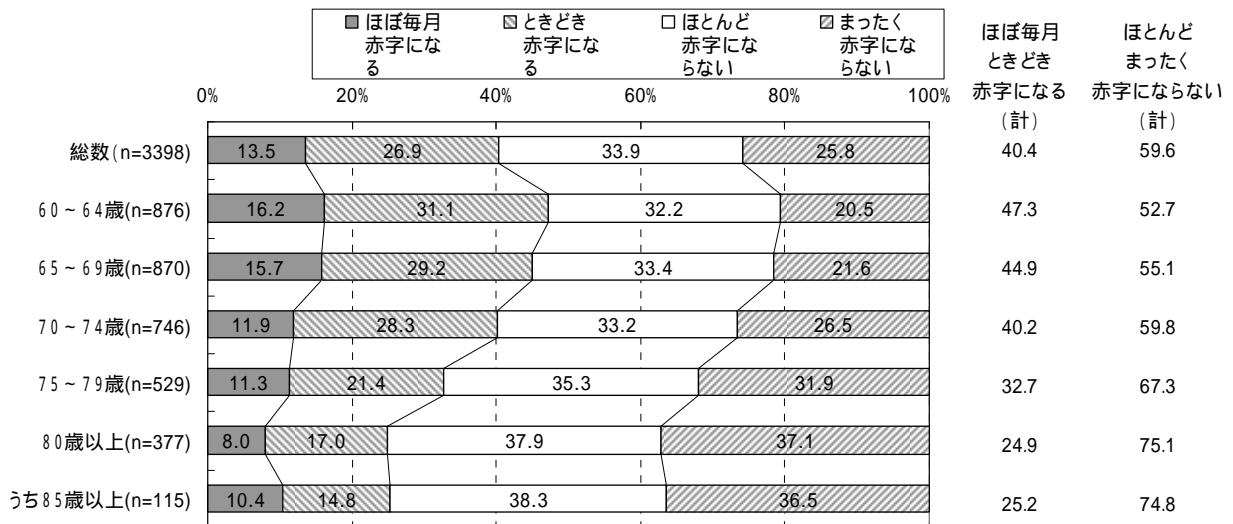
(現在の暮らし向き)



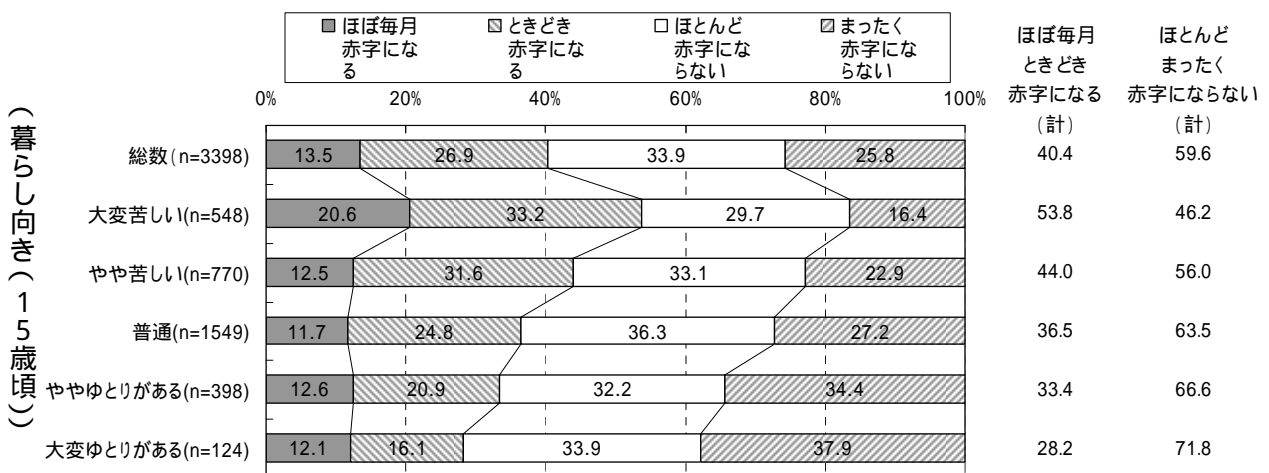
- ・ 家計の状況について「ほぼ毎月赤字になる」「ときどき赤字になる」と回答した人は40.4%。
- ・ 「ほぼ毎月赤字になる」と「ときどき赤字になる」をあわせた『赤字になる』と回答した人は、年齢別にみると、高齢になるにつれて少なくなる傾向。
- ・ 15歳の頃の暮らし向きについて「大変苦しかった」と回答した人の53.8%が『赤字になる』と回答。15歳の頃の暮らし向きが苦しい人ほど、現在の家計で赤字になると回答する人が多い。
- ・ 健康状態がよくないほど『赤字になる』と回答した人が多く、健康状態が「よくない」と回答した人の約6割が『赤字になる』と回答。

Q5「お宅の家計は、「ほぼ毎月赤字になる」、「ときどき赤字になる」、「ほとんど赤字にならない」、「まったく赤字にならない」の中のどれにもっとも近いですか。

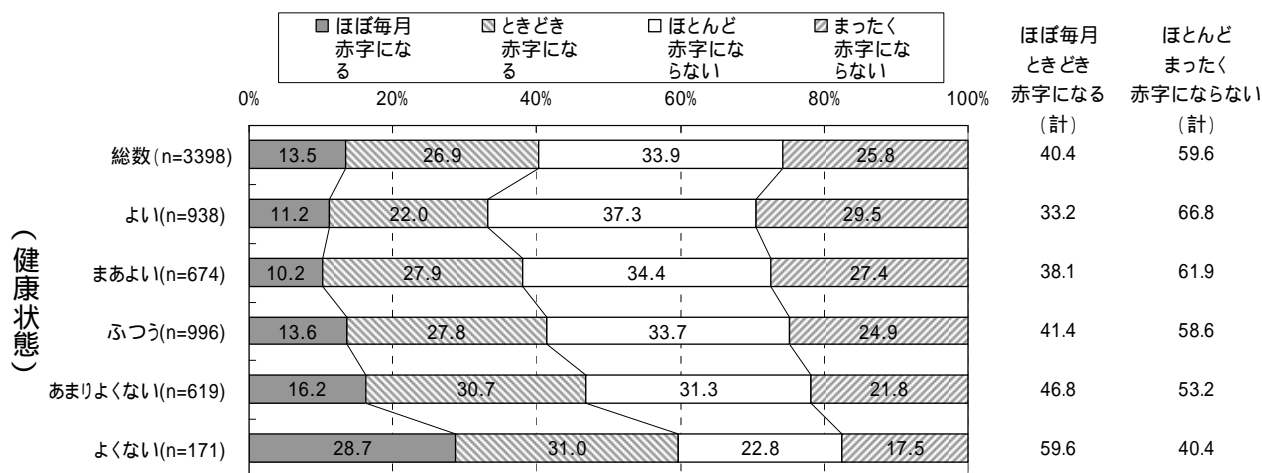
(年齢階層別)



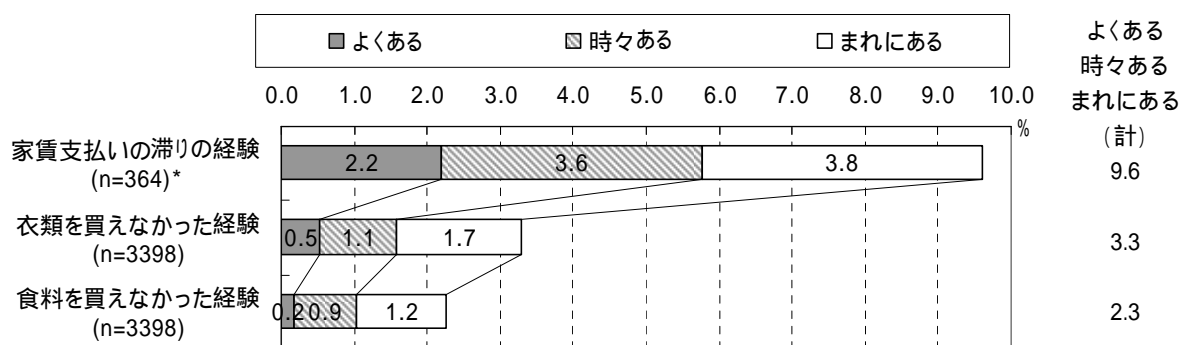
(15歳の頃の暮らし向き別)



(健康状態別)



- ・ 現在、賃貸住宅や借間に住んでいる人で、過去1年間に家賃支払いの滞り経験がある人は9.6%であった。
- ・ 過去1年間に金銭的な理由で家族が必要とする衣類が買えなかったことがある人は3.3%、食料が買えなかった人は2.3%であった。
- ・ 過去1年間に水道、電気・ガスなどのサービスを停止された経験がある人は0.8%であった。



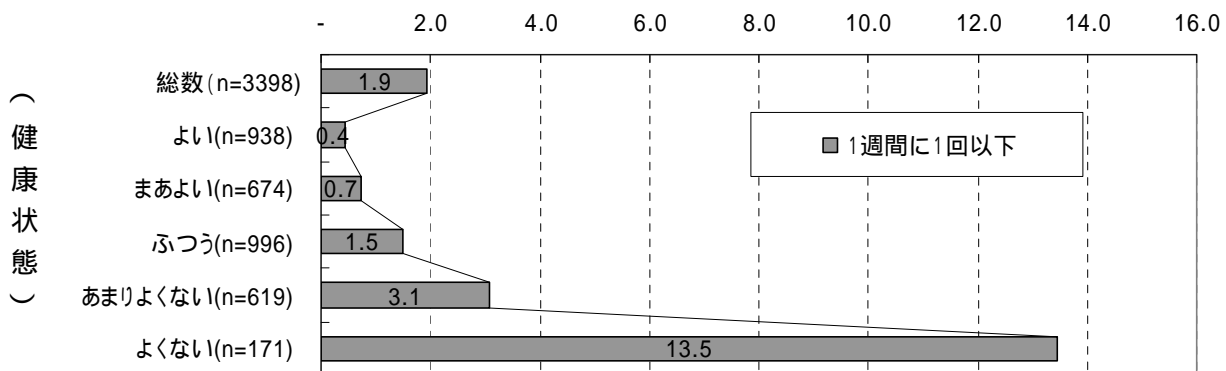
* 住居形態が賃貸住宅・借間の人

3. 社会生活に関する事項

- ・ 日ごろの会話について、健康状態がよくないほど、会話の回数も少ない人が多く、健康状態が「よくない」と回答した人で会話が「1週間に1回以下」と回答した人は、13.5%であった。

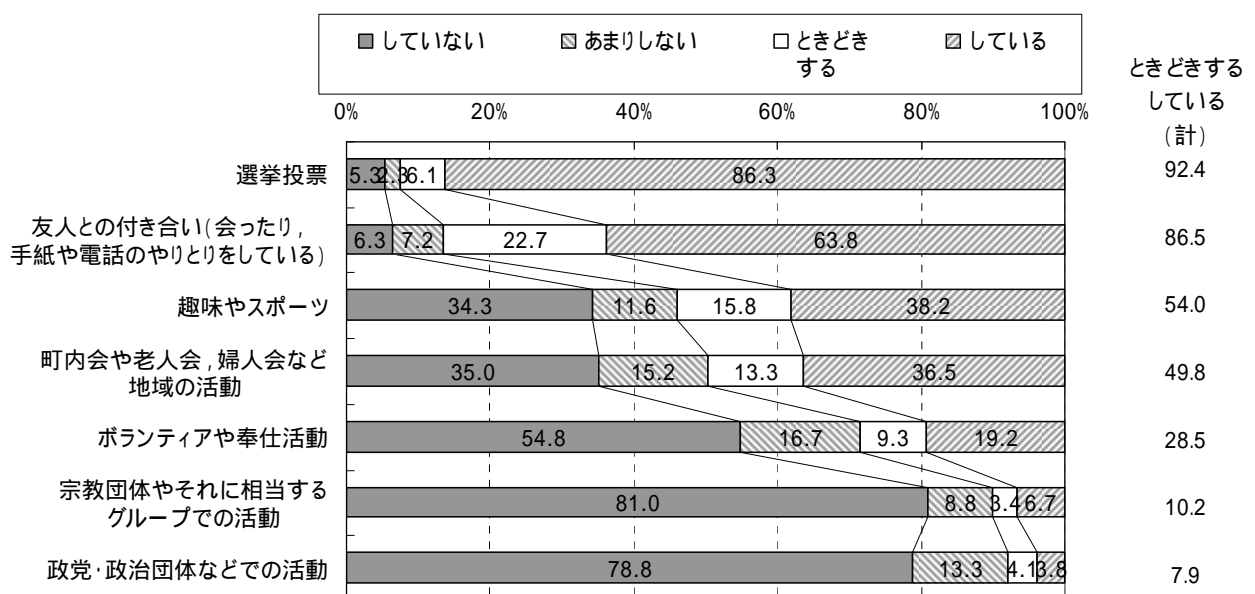
Q13 「あなたは、ふだんの程度、人（同居の家族を含む）と話をしていますか。電話やEメールも含めてお答えください。」

（健康状態別）

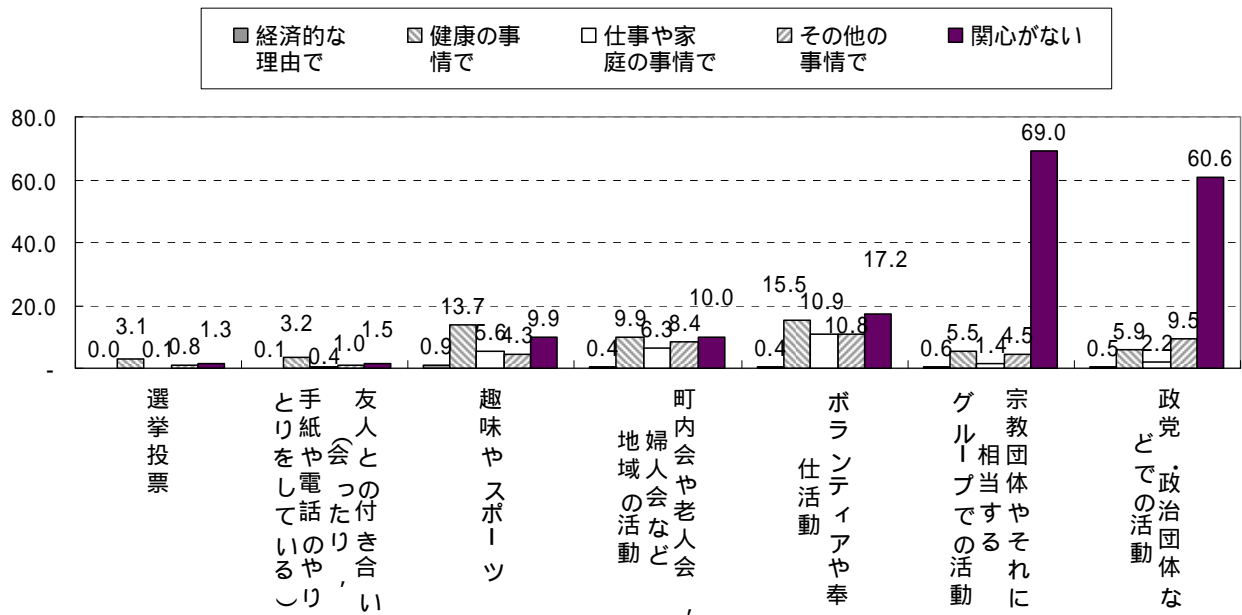


- ・ 日頃の社会活動について、約9割の人が「選挙投票」、「友人との付き合い」を行っている。続いて、約5割の人が「趣味やスポーツ」、「町内会や老人会、婦人会などの地域の活動」を行っている。
- ・ 社会活動を行わない理由として「選挙投票」、「友人との付き合い」、「趣味やスポーツ」については「健康の事情」が多いが、「宗教団体やそれに相当するグループでの活動」や「政党・政治団体などでの活動」については「関心がない」が多い。

Q14 「あなたは日ごろ趣味やスポーツなど社会活動をしていますか？」



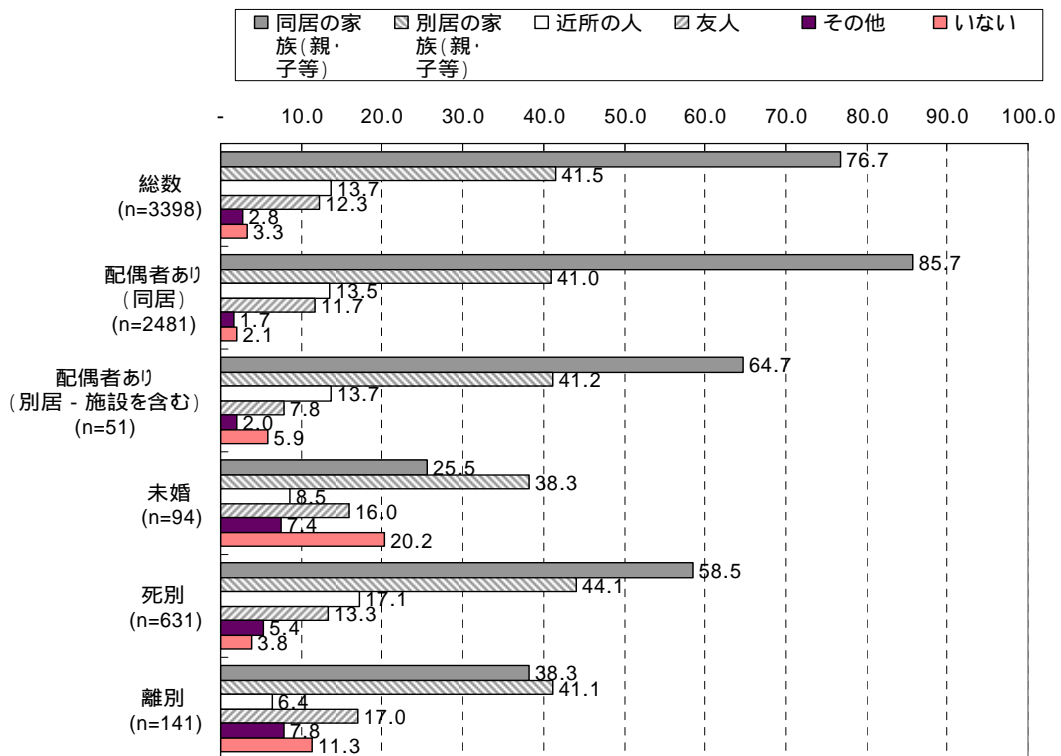
社会活動を行わない理由（一つを選択）



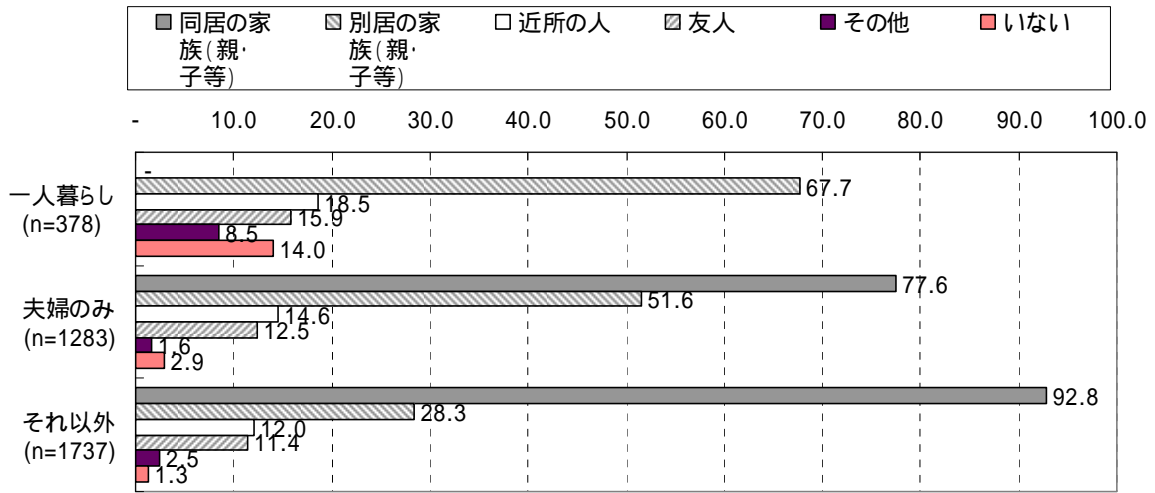
- ・ 頼れる人が「いない」と回答した人は、総数で 3.3%であった一方、「未婚」では5人に1人。
- ・ 一人暮らし世帯では、14.0%が頼れる人がいないと回答。

Q14 「あなたは、病気の時や、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人はいますか」（複数回答）

（婚姻状況別）



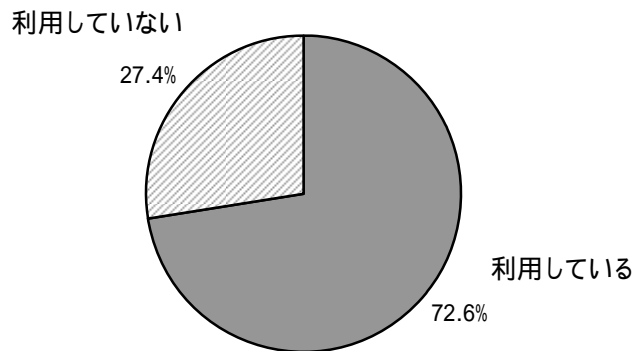
(世帯構成別)



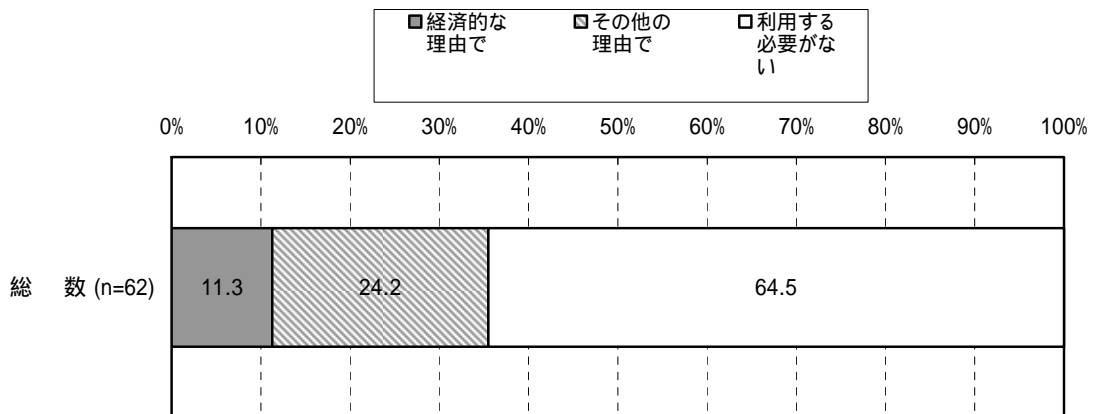
4 . 公共サービスの利用に関する事項

- ・ 要介護等認定を受けている 226 名のうち、介護保険対象サービスを利用しているのは 72.6%、利用していないのは 27.4%であった。
- ・ 介護保険対象サービスを「利用していない」と回答した人のうち「経済的な理由で」と回答した人は 11.3%となっている。

Q 1 6 - 1 「あなたは、介護保険対象サービスを十分に利用していますか。」 (n=226)



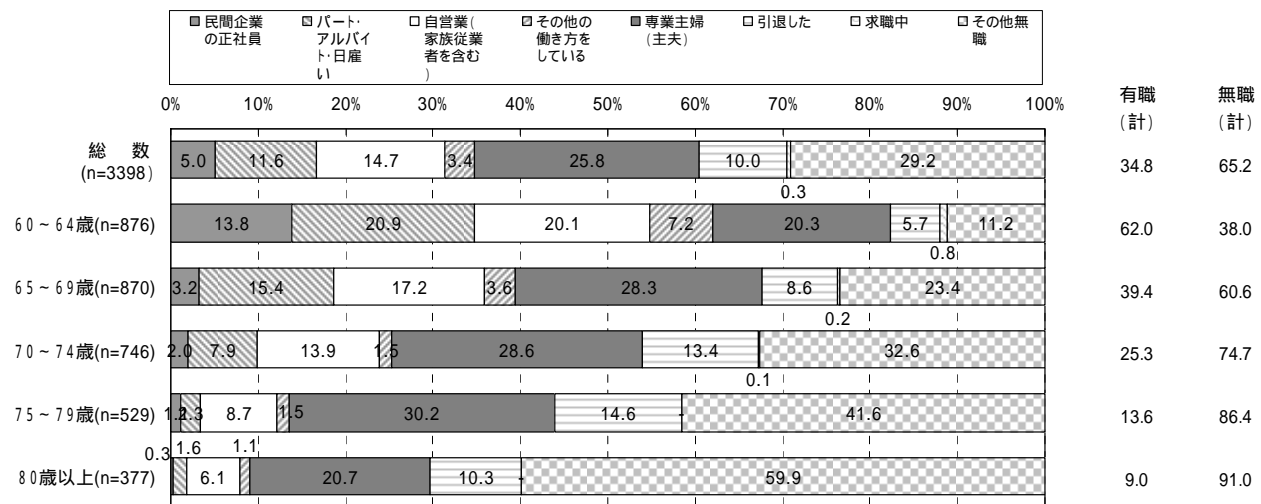
Q 1 6 - 2 介護サービスを利用していない「その理由は何ですか。」



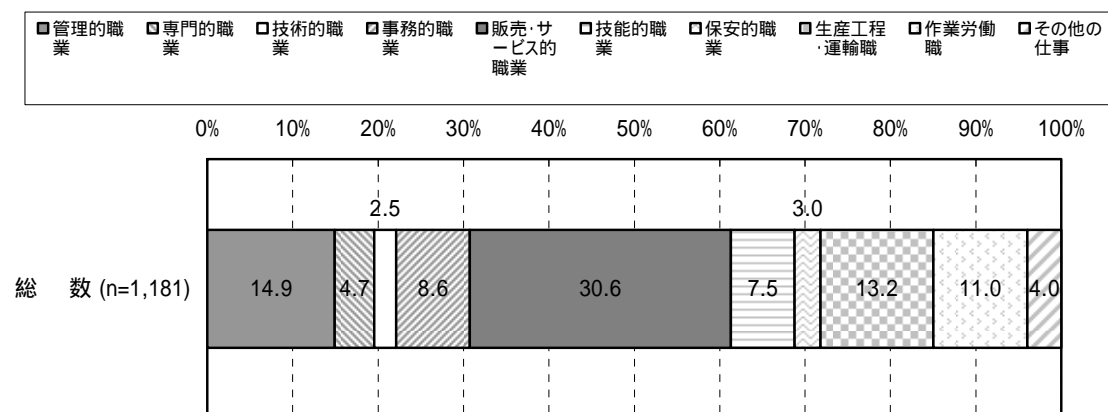
5. 職業と収入に関する事項

- ・ 全体では有職者は34.8%、無職は65.2%であった。60代前半では62.0%が有職者。
- ・ 有職者では、「販売・サービスの職業」が最も多く30.6%、次いで「管理的職業」が14.9%、「生産工程・運輸職」が13.2%となっている。

Q18 「あなた（対象者本人）は現在、収入を伴うお仕事をしていますか。」



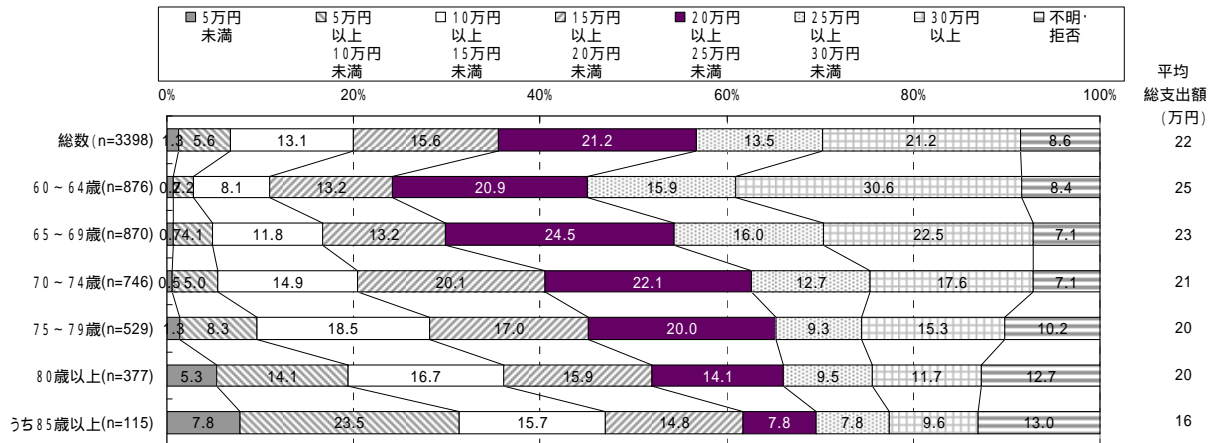
Q18-1 「お仕事の内容はつぎのどれにもっとも近いですか。」



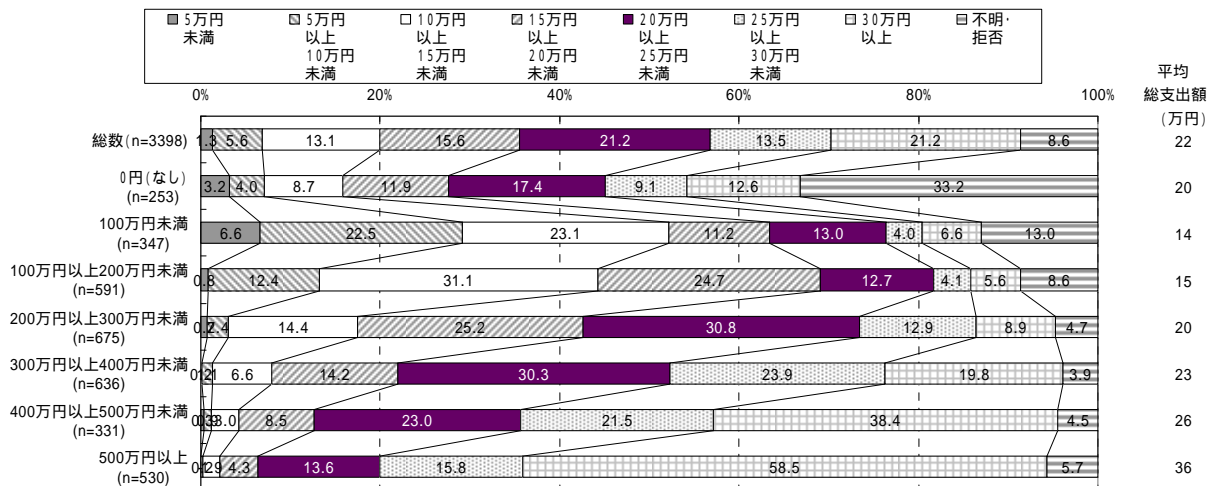
- ・ 「配偶者と合わせた1ヶ月の平均総支出額」を尋ねると、平均は22万円であり、年齢が高くなるほど総支出額が少なくなる傾向。
- ・ 夫婦の総収入が高いほど総支出額が多くなる傾向。

Q 2 1 「あなたとあなたの配偶者の、1ヶ月平均の支出はあわせていくら位でしたか。」

(年齢階層別)

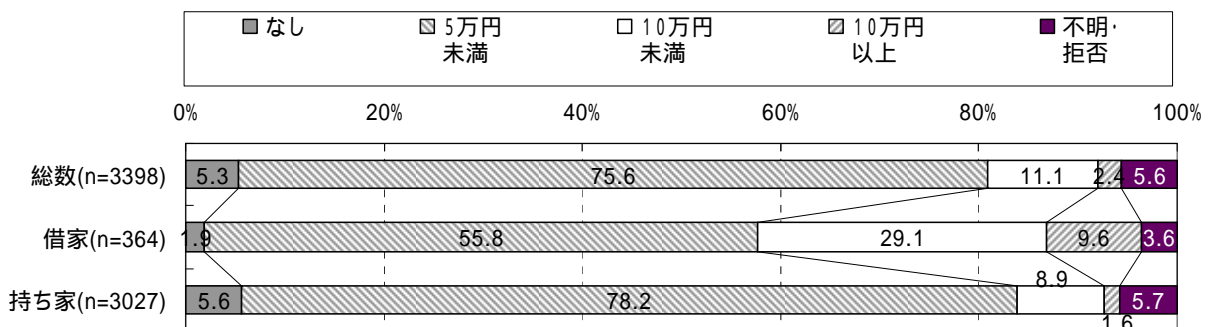


(夫婦収入額別)

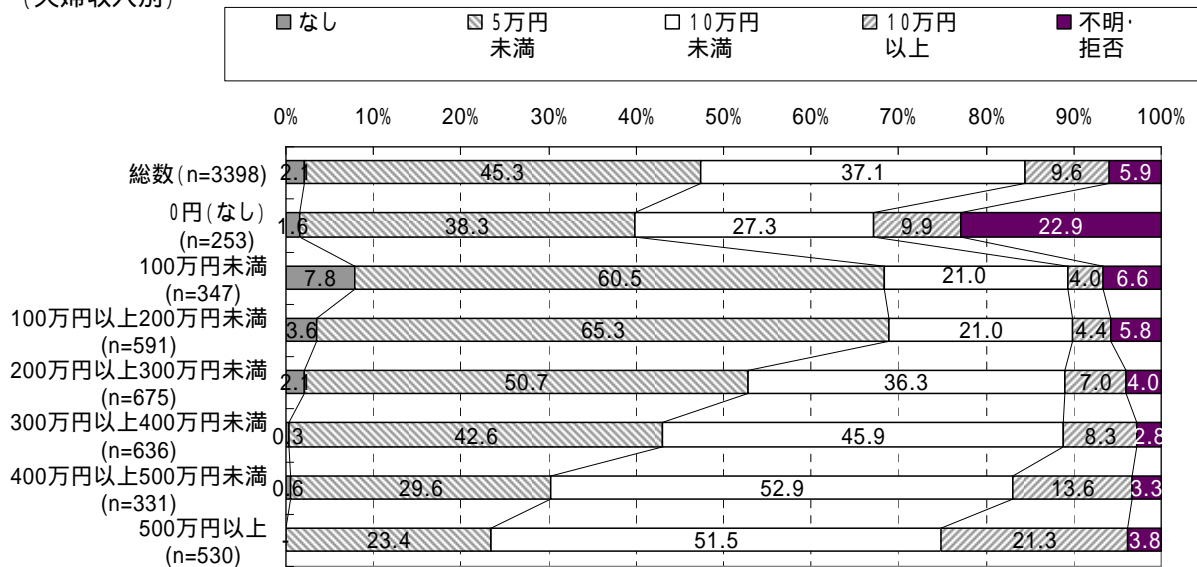


- ・ 住宅費（光熱費含む）については、5万円未満の人が全体8割強であった。住居形態別で見ると、住宅費（光熱費含む）が5万円以上の人は、持家の人は10.5%に対し、借家の人は38.7%であった。
- ・ 食費については、5万円未満の人が全体の5割弱であった。夫婦収入別に見ると、収入が多くなるほど、食費が増える傾向にある。
- ・ 衣服費については、5万円未満の人が全体の9割強であった。夫婦収入別に見ると、収入が少ないほど、衣服費「0円（なし）」と回答する人が増え、100万円未満では約3人に1人、100万円以上200万円未満では約4人に1人となっている。

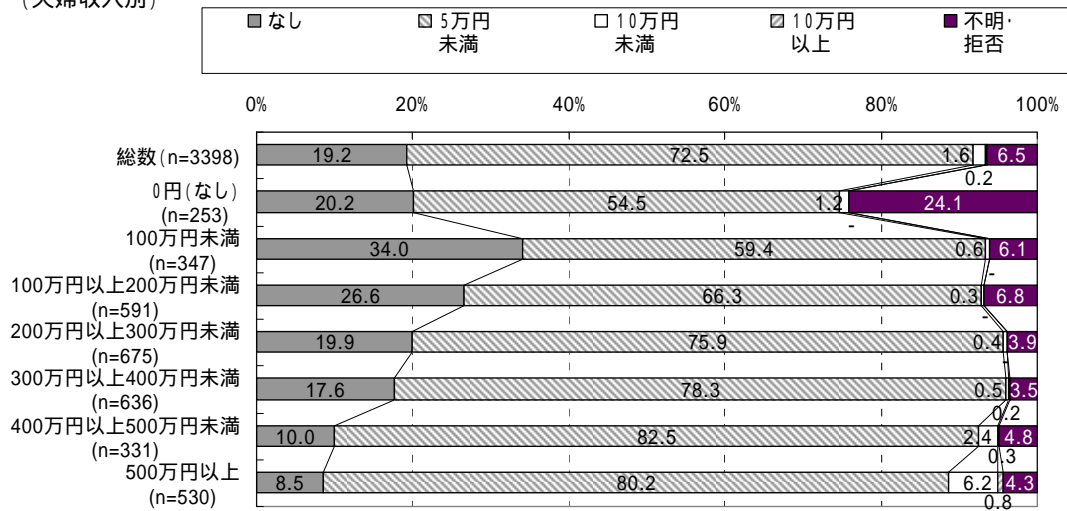
< 住宅費(光熱費含む) >
(住居形態別)



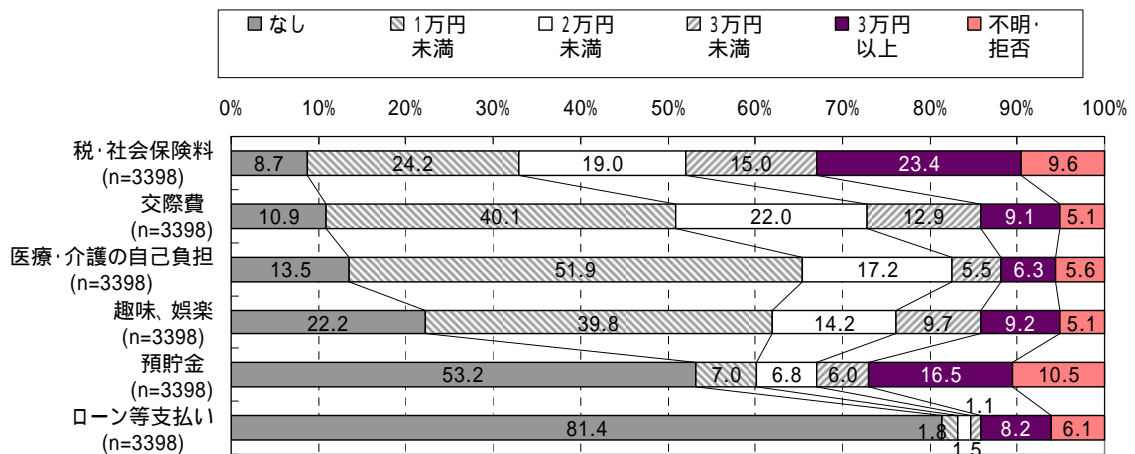
< 1ヵ月平均の食費 >
(夫婦収入別)



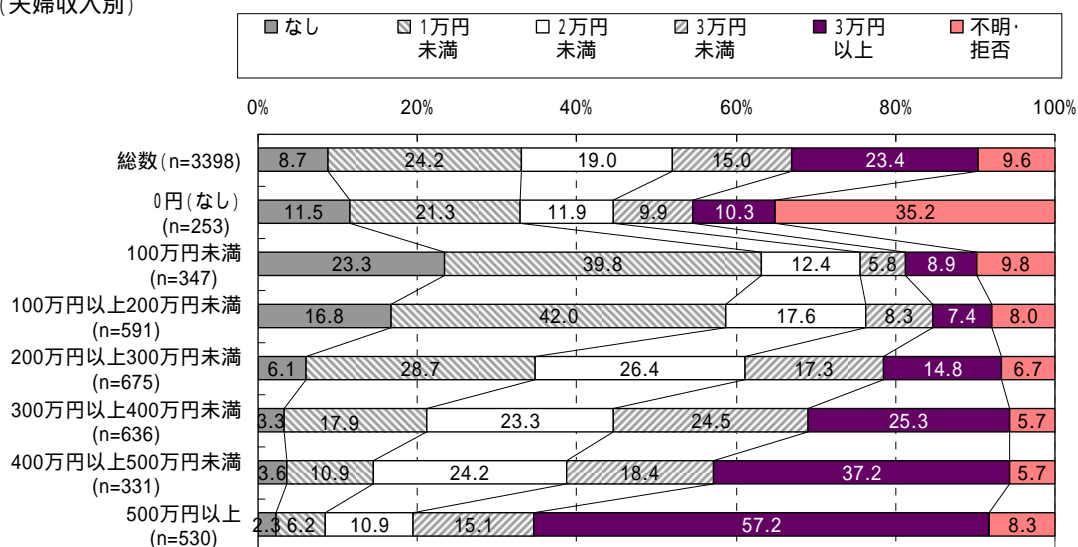
< 1ヵ月平均の衣服費 >
(夫婦収入別)



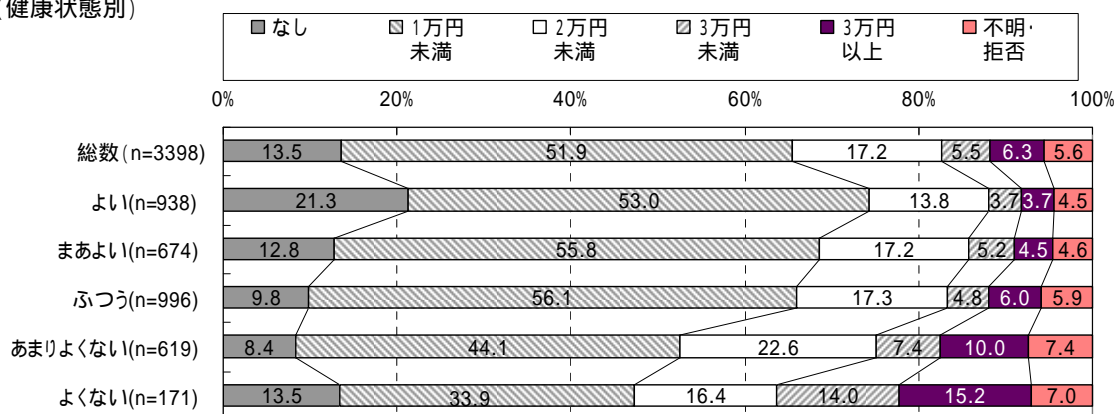
・ その他の支出 (1ヵ月平均) を見ると、交際費が1万円未満の人が約5割、趣味・娯楽が1万円未満の人が6割強となっている。



1ヵ月平均の税・社会保険料
(夫婦収入別)



1ヵ月平均の医療・介護の自己負担費
(健康状態別)



7. 家族に関する事項

- ・ 同居している家族の人数（本人を含む）を尋ねると、「2人」が44.3%と最も高い。次いで「3人」の21.5%、「1人」の11.1%。
- ・ 性・年齢別に見ると、女性は高齢になればなるほど一人暮らしが増え、80歳以上の女性の一人暮らしは2割を超える。

Q28 「現在、一緒に住んでいるご家族はあなたを含めて何人ですか」

